

学校法人軽井沢風越学園 事業報告  
(2023年度)

1. 事業概要(2023年度)	3
2. 決算	5
3. 教育活動	11
<3.1 カリキュラムの概要>	11
<3.2 2023年度の試み>	14
<3.3 在籍数の推移>	16
4. 教育関連活動	17
<4.1 募集>	17
<4.2 寄付募集>	19
<4.3 授業料等減免制度>	21
<4.4 主催事業>	22
5. 運営	26
<5.1 財務・会計・経理>	26
<5.2 人事・労務>	26
<5.3 施設・設備>	26
<5.4 総務>	27
<5.5 校務>	27
<5.6 法務>	27
<5.7 広報>	27
<5.8 情報システム>	28
<5.9 渉外>	28
参考資料	29
<大切にしたいこと>	29
<法人概要>	30
<教職員組織>	31
<在籍数>	32
<施設>	33
<2023年度学校評価 結果概要>	35

# 1. 事業概要(2023年度)

2023年3月20日に行われた1期生の卒業式の一日は、軽井沢風越学園の開設してからの3年間で濃縮されたものであった。その日の卒業生と送り出す在校生や保護者の姿や声は、「この方向性でいいのだろうか」と悩みながら試行錯誤を続けてきたスタッフに「この方向性で概ね大丈夫だ」という自信や手応えを感じさせるものだった。そうしたことは、スタッフの実践の支えとなり、子どもたちとの関わりにもにじみ出ていった。同時に、2023年度に9年生となった子どもたちを中心に、「風越は最近、子どもも大人もつくる意識が足りないんじゃないか」という声が春に上がり、学園全体で改めて「つくる」という原点を確認し、行動したのが2023年度のスタートであった。

カリキュラムとして成果が出てきたものとして、異年齢のホーム、マイプロジェクトがあげられる。こうした成果は、他のカリキュラムにも波及し、学園全体の空気感を変えていった。これについては2023年度末に行った学校評価の保護者とスタッフの回答結果にも現れている。こうした動きを確かなものとするために、軽井沢風越学園が目指していく方向として「100%わたしをつくる」、軽井沢風越学園をかたちづくるキーとなるものとして、①探究(方法) ②異年齢(関係) ③遊環(環境)の3つの軸を年間を通じてスタッフの間で何度も確認をしていった。

2028年度に実現したい子どもの姿
1. 9年生の1人ひとりが、風越のリソースを十分に活用し、他者と協同しながら、自分の学びをつくっている。
2. 年少から8年生の1人ひとりが、12学年のつながりを持ち、「100%わたしをつくる」に向かって学んでいる。

2028年度に実現したいスタッフの姿
1. スタッフの1人ひとりが、風越のリソースを十分に活用し、他者と協同しながら、子どもたちの学びに関わっている。
2. 1人のスタッフが12学年の子どもたちに関わっている。全スタッフで1人の子どもに関わっている。

入園入学者募集は引き続き堅調に推移し、2023年度に73.1%だった定員充足率は2024年度には77.0%にまで上がった。しかしながら、財務の脆弱性は継続しており、授業料等の10%の値上げを2024年度から実施することとした。収入増に寄与したものとしては、寄付募集と視察研修事業があった。寄付募集は件数は減ったものの金額は10%増の約9,500万円、視察研修事業は約290万円と昨年度の3倍程度の伸びとなった。寄付募集と視察研修事業は2024年度も継続して力を入れて実施していく。

人材獲得難は教育業界にも確実に波及しているが、学園としても一定数の採用を継続的に続けている。双方のミスマッチを極力減らすためにも、2023年度は書類選考後に学校見学も兼ねた1泊2日の採用合宿を行い、これまで以上に丁寧に採用プロセスを進めた。また若手の採用を強化するためにも、10年目までの若手の処遇改善を実施し2024年から実施することとなった。毎週水曜日午後と月一回のスタッフ研修のための時間は、より充実したものになるようにするための課題が残っている。人事制度については具体的な施策立案までは実を結ばなかったため、2024年度の継続課題となった。

総じて充実した1年となった2023年度であったが、あらゆる点で解決すべき課題は残っている。「100%わたしをつくる」の実現とさらなる展開を目指し、「つくり手」の意識の高まりを学園全体のものとするべく引き続き前進していきたい。

## 2. 決算

### 【資金収支計算書の概要】

(単位:円)

		予算	決算	差額
収入の部		657,200,350	669,386,727	▲12,186,377
	学生生徒等納付金	206,856,000	204,584,000	2,272,000
	手数料	2,100,000	3,600,000	▲1,500,000
	寄付金	73,000,000	76,692,000	▲3,692,000
	補助金	96,358,000	115,750,000	▲19,392,000
	付随事業収入	5,071,000	5,754,100	▲683,100
	受取利息・配当金収入	0	10	▲10
	雑収入	5,500,000	9,435,750	▲3,935,750
	前受金収入	8,050,000	7,650,000	400,000
	その他の収入	88,278,461	68,540,392	19,738,069
	資金収入調整勘定	17,200,000	11,806,414	5,393,586
	前年度繰越支払資金	189,186,889	189,186,889	0
支出の部		657,200,350	669,386,727	▲12,186,377
	人件費支出	286,031,000	284,800,886	1,230,114
	教育研究経費支出	86,006,210	72,915,778	13,090,432
	管理経費支出	50,891,000	47,453,826	3,437,174
	施設関係支出	320,000	310,200	9,800
	設備関係支出	4,540,000	4,300,593	239,407
	その他の支出	91,665,118	98,751,228	▲7,086,110
	(予備費) <sup>1</sup>	(3,320,000) 1,680,000	—	1,680,000
	資金支出調整勘定	▲34,000,000	▲35,225,280	1,225,280
	翌年度繰越支払資金	170,067,022	196,079,496	▲26,012,474

<sup>1</sup> 予備費:当初予算5,000,000円 - 使用額3,320,000円 = 1,680,000円  
(使用額内訳は2023年度計算書類を参照)

## 【事業活動収支計算書の概要】

(単位:円)

		予算	決算	差額
教育活動収入		385,885,000	413,178,850	▲27,293,850
	学生生徒等納付金	206,856,000	204,584,000	2,272,000
	手数料	2,100,000	3,600,000	▲1,500,000
	寄付金 <sup>2</sup>	70,000,000	74,055,000	▲4,055,000
	経常費等補助金 <sup>3</sup>	96,358,000	115,750,000	▲19,392,000
	付随事業収入	5,071,000	5,754,100	▲683,100
	雑収入	5,500,000	9,435,750	▲3,935,750
教育活動支出		538,228,210	519,597,517	18,630,693
	人件費	286,031,000	284,800,886	1,230,114
	教育研究経費	200,506,210	186,935,357	13,570,853
	管理経費	51,691,000	47,861,274	3,829,726
教育活動収支差額 <sup>4</sup>		▲152,343,210	▲106,418,667	▲45,924,543

## 【事業活動収支計算書に関する補足説明】

### 1) 収入

- 増加要因
  - 経常費等補助金の増加
    - 予算比約1,940万円の増収。特に学校法人補助金(幼稚園分)は取り組みに応じて配分されるが、2022年度に引き続き予想を上回る配分となった。
  - 雑収入の増加
    - 予算比約390万円の増収。主に、書籍発売で約230万円、企業研修で約90万円、実践ラボで約40万円の増加となった。
- 減少要因
  - 学生生徒等納付金の減少
    - 年度途中で5名が転出したため、予算比で約227万円の減少となった。<sup>5</sup> 財務状況改善と学則定員のバランスについては中長期的に検討していく。

### 2) 支出

- 物価高騰にともなう人件費の調整手当(1ヶ月分)について、予備費300万円を充当することで予算内に収まった。

<sup>2</sup> 資金収支計算書と事業活動収支計算書の「寄付金」に差異があるのは、事業活動収支計算書で「特別収支 - 施設設備寄付金」に2,637,000円が計上されているため。

<sup>3</sup> うち、私立学校振興助成法に基づく助成額: 幼稚園22,615,000円、義務教育学校79,918,000円

<sup>4</sup> 「減価償却額」は事業活動収支計算書の「教育研究経費」と「管理経費」に計上されている。

<sup>5</sup> 「3.3 在籍数の推移」参照

### 3) 収支改善策について

- 改善策①: 寄付金募集の強化<sup>6</sup>
- 改善策②: 付随事業・収益事業収入の増加<sup>7</sup>
- 改善策③: さらなるコスト削減<sup>8</sup>

(表) <参考> 重要KPI: 「補正人件費依存率」「人件費依存率」「人件費比率」

	2023 年度 (予算)	2023 年度 (実績)	2024 年度 (予算)	目標	中学 法人 平均 <sup>9</sup>	小学 法人 平均 <sup>10</sup>
補正人件費依存率(%) (人件費+(学生生徒等納付金 + 県・町補助金)) <sup>11</sup>	98.6	<b>92.7</b>	89.7	80.0	77.6	69.0
人件費依存率(%) (人件費+学生生徒等納付金)	138.3	<b>139.2</b>	123.2	100.0	154.1	114.2
人件費比率(%) (人件費+教育活動収入 <sup>12</sup> )	74.1	<b>68.9</b>	66.8	60.0	64.4	57.8

(表) <参考> 定員充足率100%時の学生生徒等納付金と補助金<sup>13</sup>

	幼稚園	義務教育学校
入園・入学金	10万円	20万円
保育料・授業料	54万円/年	60万円/年
施設料	10万円/年	10万円/年
教育・活動料	2.4万円/年	3万円/年
補助金	19万円/年・人	32万円/年・人

- 幼稚園が定員(72名)を満したした場合  
 $63,888千円 = 10万円 \times 24人 + (54万円 + 10万円 + 2.4万円 + 19万円) \times 72人$
- 義務教育学校が定員(315名)を満したした場合  
 $337,750千円 = 20万円 \times 35人 + (60万円 + 10万円 + 3万円 + 32万円) \times 315人$
- 幼稚園、義務教育学校どちらも定員を満した場合  
 $401,638千円 = 63,888千円 + 337,750千円$   
※以上の収入には、授業料等減免制度等の減収額は反映していない。

<sup>6</sup>「4.2 寄付募集」参照

<sup>7</sup>「4.4 主催事業」参照

<sup>8</sup>「5 運営」参照

<sup>9</sup> 令和3年度版「今日の私学財政」より

<sup>10</sup> 同上

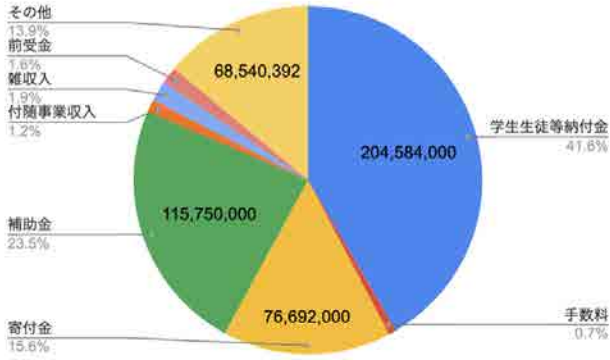
<sup>11</sup> 風越学園は、市町村補助金(ふるさと納税)を除いた経常費等補助金で算出

<sup>12</sup> 教育活動収入=寄付金+事業収入を含む

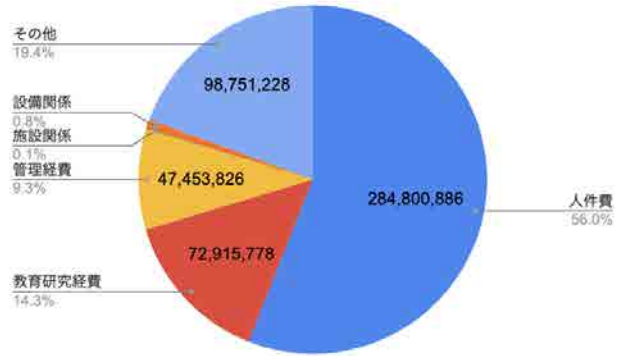
<sup>13</sup> 2024年3月31日時点

<参考>

資金収支計算書（収入構成） ※資金収入調整勘定を除く  
単位：円



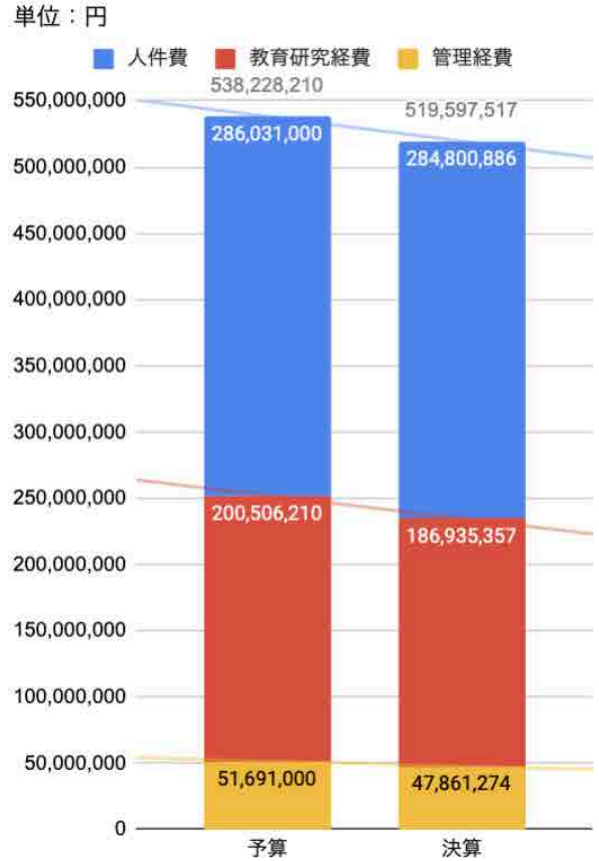
資金収支計算書（支出構成） ※資金支出調整勘定を除く  
単位：円



事業活動収支計算書\_教育活動収入  
(予実比較)  
単位：円

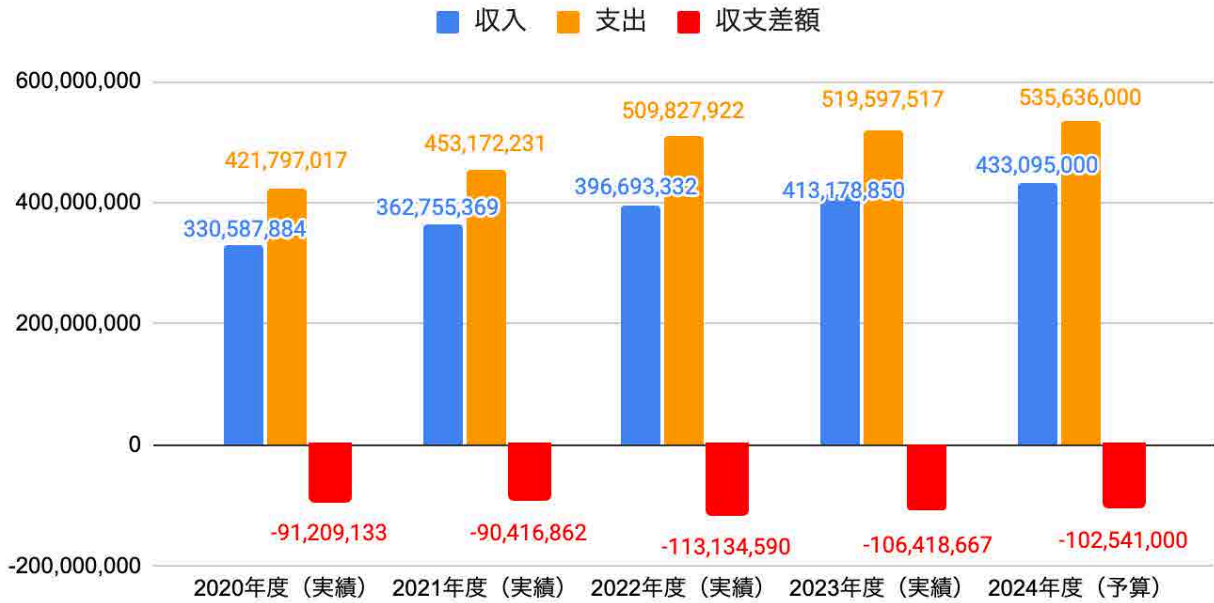


事業活動収支計算書\_教育活動支出  
(予実比較)  
単位：円



## 事業活動収支計算書 教育活動収支の年度推移 (2020年度～2024年度)

単位：円



### 事業活動収支計算書 教育活動収支の年度推移

(単位：円)

	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (予算)
収入	330,587,884	362,755,369	396,693,332	413,178,850	433,095,000
支出	421,797,017	453,172,231	509,827,922	519,597,517	535,636,000
収支差額	-91,209,133	-90,416,862	-113,134,590	-106,418,667	-102,541,000

<参考>学校会計と企業会計

学校会計	企業会計
貸借対照表	貸借対照表
事業活動収支計算書	損益計算書
資金収支計算書	キャッシュフロー計算書

貸借対照表		事業活動収支計算書		資金収支計算書		
資産の部	負債の部	経常収支	教育活動収支	教育活動収入	収入の部	
固定資産 有形固定資産 土地 建物 教育研究用機器 管理用機器 特定資産	固定負債		教育活動支出	教育活動収支差額		支出の部
	流動負債 未払金 前受金 預り金		教育活動外収支	教育活動外収入	翌年度繰越資金 (現預金残高)	
流動資産 現金			教育活動外支出	教育活動外収支差額		
	純資産の部		経常収支差額			
基本金(1~4号)			特別収支	特別活動収入		
				特別活動支出		
繰越収支差額			特別収支差額			
			基本金組入前当年度収支差額			
			基本金組入額			
		当年度収支差額				
		前年度繰越収支差額				
		翌年度繰越収支差額				

### 3. 教育活動

#### <3.1 カリキュラムの概要>

軽井沢風越学園ではカリキュラムを「子どもの経験の総体」と捉える。子どもは授業等の意図された時間の中だけで学んでいるわけではない。例えば、森やライブラリー、ラボなどの環境、活動によって変化する集団、異年齢の子ども同士の関係や日々のスタッフの関わり、昼休み時間でのあそびもカリキュラムである。

「どんな子どもにも幸せな子ども時代を過ごしてほしい。あそびが学びへとつながっていく、人間の自然な育ちを大切にしたい学校をつくりたい」という願いのもと「子どもこそが作り手」であることに常に立ち返り、どう在ればよいかを何度も問い、子どもの経験の総体としてのカリキュラムをよりよくし続けていく。

2023年度はカリキュラムディレクターを中心に、スタッフとカリキュラムチューニングの機会を重ねながら、後述のように整理した。特に、カリキュラムを深める中で見えてきた大切にしたい3つの視点「身体性」「当事者性」「コミュニティ」という3つの視点を置きカリキュラムのどの側面においてもこの3つの視点から実践を捉えて深めていくことを目指した。

- 身体性 …感覚や感性の重視、自分の手で作り出す経験、本物に出会う
- 当事者性 …自分ごとになっているか(情熱)、対象との関係性、学び方を学ぶ(目標設定、計画、振り返り、自己調整)
- コミュニティ…複数のコミュニティ、ききあう、多様さを認め合う、貢献、相互作用、学び合い、あこがれ、ケアし合う関係性

以下では2023年度の重点について報告する。

#### ①テーマプロジェクト(3～9年生)

1. 年間を4タームに分けてテーマプロジェクトに取り組んだ。4年目を迎え、スタッフ、子どもともに手応えを感じるプロジェクトが増えている。9年生も2年目となる卒業探究(そつたん)に取り組み、2024年度に向けた成果と課題を明らかにすることができた。
2. 実践の質を上げるため、2023年度は軽井沢風越ラーニングセンターでプロジェクトの設計につながる研修や振り返りの研修機会の提供、必要なリソースの提供等サポートをした。

#### ②くらしあそびプロジェクト(1,2年生)

1. 4月当初、1年生は、他園から入学した子どもたちも含めコミュニティ作りを丁寧に行った。また2年生は同学年のみで過ごす中で、前年度の経験から、「プロジェクト活動をしたい」という思いをもつ子を起点に「森のライブラリーづくり」「森のキッチンづくり」「秘密基地づくり」など、それぞれの関心から始まるプロジェクト活動が始まった。
2. 気の合う仲間が始まるプロジェクト活動だけでなく、あまり関わりのなかった人とプロジェクト活動をつくっていく経験をしてほしいという願いから、後半は1,2年生混合の3つのグループで活動に取り組んだ。

#### ③マイプロジェクト

1. 3年生から9年生は、週に4時間(毎週水曜日)、「マイプロジェクト」に取り組んだ。マイプロジェクトの定義は以下の通りである。
  - 子どもの『やってみたい、知りたい、解明したい』という情熱から出発する。
  - 自分のテーマを深め、広げていく中で、自分自身を探究する。
  - 自分のプロジェクトを目的に向かって計画し、実行したり振り返ったりすることを通して、自分のプロジェクトを自分でつくる手応えを感じる。

## 2. 取り組みの成果

- 「マイプロで大切にしたいこと654」(6つの視点・5つのアウトプットの場合、4つのリソース)を設定し、子ども自身がプロジェクトに活かすと共にスタッフの伴走の視点とした。
- 水曜日に集中させたことにより、「水曜日はマイプロの日」というわかりやすさに加え、異学年でのプロジェクトが起こりやすいこと、1日単位での活動やフィールドワークが行いやすくなったことなど、よい影響がみられた。
- スタッフも授業準備や片付けにとらわれることなくマイプロの伴走に集中できること、担当グループ以外の子のプロジェクトに伴走できた。
- 4コマ分を一人ひとりの子どもたちが計画し、実行する難しさも生まれ、緩やかな「前半」「後半」という時間の枠を設定した。
- 学びのプロセスを残し、振り返りスタッフとやりとりするための「マイプロファイル」を作成し、試験的に活用した。

### ④アウトプットデイ・書籍の刊行

- 学びの成果やプロセスを外部に開くアウトプットデイを4回実施した。2023年度は地域の方をアウトプットデイに招くことができ、学校を地域に開いていく一歩となった。また、アウトプットデイでのマイプロジェクトの発表も100エントリーを超えるようになった。
- テーマプロジェクトとマイプロジェクトの実践記録を含め、テーマプロジェクトの実践について4年間の軌跡をテキストにまとめ、増補改訂版を出版した。

### ⑤土台の学び

1. 土台の学びは、時間割に明示的に設定する時間を整理した。テーマプロジェクトのような教科横断的に学ぶ学習内容よりも、より教科の特質に応じた学びの機会を得るため、小学校の社会科(地球と人)と理科(科学者の時間)、外国語を設定し時数を整理した。
2. 学年間の連続性を意識することを目指したが、教科によってはラーニンググループごとに担当者が違い、一貫性が生まれにくかった。まだ各教科、各スタッフのチャレンジになっているのが現状である。
3. 2024年度は、学びランチを活性化させ、縦の連続性を意識した土台の学びのカリキュラムと実践を構成していく。また年間計画によるカリキュラムの可視化、記録と評価<sup>14</sup>の充実を図ることで、学園としての土台の学びの方向性を明確にしていく。

### ⑥幼稚園のくらしとあそび

1. 自然の中でたっぷり遊ぶことを通じて自分に出会っている。季節の移ろいの中で一人ひとりの興味関心から、あそびひたり、あそびこみ、自らの手でくらしをつくることを目指した実践をしてきた。学年グループの活動を中心にしながら、毎週月曜日は園児全員で「みんなの集い」を行い、畑の仕事や子どもが提案した遊びで集まり活動した。また、金曜日は3学年が混ざりあうホームの日とした。しかし、全体的には学年グループの活動時間が多くなったことで異年齢で遊ぶ姿はあまり見られなかった。2024年度は学年グループを超えて出会えるよう取り組んでいきたい。
2. フィールドを自分たちの手でつくるために、毎週月曜日に川の補修を行い、登園の小径や泥遊びの拠点、柳のドームをつくるなど、環境づくりに取り組んだ。
3. 2023年度は付箋を活用した記録とふりかえりの試みを実践して3年目となった。2023年度は、子ども一人ひとりの総括と面談や指導要録への展開も学年グループごとに濃淡あれど活用することができた。2024年度も引き続き記録のあり方を更新し継続していきたい。
4. 「自然の中で子どもの何が育っているか？」をテーマに、森の案内人(インタープリター)／写真家の小西貴土さんを伴走役にお招きし、エピソード記述から大切にしていることを読み解いてい

<sup>14</sup>「3.2 2023年度の試み」参照

く研修の時間をおいた。年3回の開催だったが、子どもの姿から保育の中で大切にしていることが浮かびあがる充実した学びの時間となった。2024年度はさらに学びを深めていきたい。

#### ⑦アドベンチャー

1. 2023年度は、過去2年の積み重ねと反省点を生かし、大きく方針を変更した。負荷のかかるチャレンジを通して、仲間との関係性を生かして目標達成に向かう場を提供することは前提として、風越学園が大切にしている「つくる」と「探究する」ことを各プログラムで大切に取り扱った。5年生以上の子どもたちは、複数のプログラムの中から自分のやりたいものを1つ選び、それを年間3回積み重ねる中で、自分たちでプログラムをつくったり、プログラムの内容や特性に合わせて自分なりのテーマを設定して探究したりした。活動の当事者として主体的、積極的に関わろうとする態度を育むことができた。
2. 長期遠征プログラムの「セルフディスカバリー」を、7年生と9年生で実施した。過酷なプログラムを通して自分に向き合い、自分の可能性を探りながら、ありがたい自分の姿を見つける体験ができた。
3. 3,4年生は、年に3回のキャンププログラムを通して、協同することや仲間とよき関係性を築きあげることの大切さを体験を通して学ぶことができた。
4. 2024年度は、プログラムやルートを子ども自身がつくる、自分の探究のテーマを決める等、より「つくる」と「探究する」ことを子どもたちと一緒に進めていく。

#### ⑧みらいをつくる

1. 7年生以上を対象にした進路指導は、「つくる」という風越学園の大切にしたいことをベースにした「みらいをつくる」という授業を中心に行った。7年生は年度初めに3回、8,9年生は毎月1回2コマという形式で実施した。2期生となる9年生は、1期生の様子や情報も参考にしながら、昨年度以上に自分自身の進路についての思いを深め、互いにやりとりしながら「わたしをつくる」と「みらいをつくる」を重ねて意思決定していった。
2. 関係機関との幅広いやりとりはスムーズに行えた。進路事務については出願期限に間に合うか際どい対応も発生したが、子どもの進路に影響が出るようなことはなかった。
3. 9年生16名の進路先は昨年度に引き続き幅広いものとなった。進学を選択せずに、親元を離れて自分のプロジェクトを進める者も出てきた。進路先は以下の通り。
  - 国立：(長野県外)釧路高専、筑波大学附属坂戸高校
  - 公立：(長野県内)上田高校、野沢北高校、屋代高校
  - 私立：(長野県内)さくら国際高校  
(長野県外)S高校、N高校、サレジオ高専、新島学園高校、横浜創英高校、和光高校
  - その他：自分のプロジェクト推進
4. 9年生だけではなく複数の学年で進路に関する保護者会の開催を行った。卒業生や卒業生保護者の話を聞くような場も設けるなどの工夫も行った。

## <3.2 2023年度の試み>

### ①記録と評価

2023年度は、風越学園が考える記録と評価を、「一人ひとりの学びの軌跡を蓄積し、共に価値づけるプロセス」と定義し、「みらいをつくるファイル」を作成した。記録は、子どもに関わるスタッフはもちろん、子ども自身が自分の学びの軌跡を蓄積していく。共に価値づけるプロセスを通して、子ども自身が、自分自身の学びを自己評価できるようになっていくことを目指してスタートした。

1. 日々の記録と評価のつながり  
一人ひとりの学びの軌跡を蓄積し、共に価値づけていくために、計画に基づく記録と評価のつながりについて、以下のように大きく3つに分けて考えた。
  - 「年間学習計画・大切にしたいこと」(活動前の計画)
  - 「日々の記録」(活動中の記録)
  - 「まとめりごとの総括的評価」(活動後の評価)
2. 以上の3つについて学年や教科ごとの特質に合わせて、記録と評価の方法を柔軟に考えた。また、その他の学習活動の子ども一人ひとりの姿に関する記録についても、スタッフ各自で活動や子どもに合ったかたちで残し、スタッフ間で共有しながら、日々の子どもの関わりに活かすことを目指した。
3. 記録・評価したことを、年度末に「みらいをつくるファイル」として整理して、製本を年少から9年生まで全家庭に持ち帰り、家庭から子どもへのメッセージを書いてもらったものを学園で保管した。
4. 初年度だったこともあり、ラーニンググループ間や、土台の学び、各プロジェクト間において、一貫性に欠けていたり、ばらつきが見られたりする。2024年度は、日々の学びの記録の残し方の工夫、スタッフからの評価の質的向上、それをもとにして共に価値づけるプロセスを高めていきたい。

### ②わたしアウトプットデイ

2023年度は、年間2回の「自分プレゼン」のうち2回目(3月)を「わたしアウトプットデイ」とした。「わたしアウトプットデイ」とは、プレゼンというイメージにこだわらず、自分なりにわたしを表現する・伝える場であり、これまでのようにスタッフと保護者のみならず、個人の選択によって他の子どもたちや保護者の前で行うこととした。

1. この時間で大切にしたいことを以下の通り共有した。
  - わたしのここまでの経験、学びを全力でアウトプットする
  - 保護者や仲間といっしょに、他者の「わたしアウトプット」を喜び、お祝いする
  - ラーニンググループごとに発表スタイルを考えて子どもたちが運営する。
2. 上記の大切にしたいことを体現する場となった。特に9年生は、お互いの成長を見届けあって卒業を迎えられる場となった。保護者からの評価も概ね好評だった。2024年度も続けていきたい。

### ③異年齢ホームの活性化や子どもの参画

開校以来大切にしてきたホームと呼ばれるコミュニティであるが、2023年度はホームの意味と価値を再確認し、以下のようにホームの活動に注力した。

#### 1. ホームの日

- 年間10回、終日ホームのメンバーで過ごす「ホームの日」を設定した。これによりホームでさまざまな活動が生まれ、コミュニケーションも活発になった。
- 文化祭やスポーツフェスティバル等の子ども主催の行事もホームの日に行われた。

#### 2. ホームの活用

- 全校ミーティングである「かざこしミーティング」でホームごとに集まって話したり、アウトプット日の振り返りをホームで行ったりした。
- マイプロジェクトでは、チェックインとチェックアウトをホームで行った。これにより異年齢でお互いのプロジェクトに関心を持ち合う関係が生まれた。

#### 3. 子どもの参画

- ホームをよりよく運営したいという9年生の有志の声を受けて、「ファシリテーター・トレーニング」という学びの場をつくり実践を重ねた。参加者は30名程(異年齢)になり、ホームのつくり手であるという当事者性が育まれ、ホームの活性化につながった。
- 「ファシリテーター・トレーニング」に参加した子を中心に「わたしは学校のつくり手である」というマインドが育まれ、ホームにとどまらず、アウトプット日やかざこしミーティング、日常のさまざまな場面で、つくり手として当事者性をもって関わっていた。
- 2024年度ホームの企画ミーティングを、子どもとスタッフで連続開催した。

2024年度はホームの時間を拡張し、朝45分確保することとなった(1週間に授業1コマ分×4回)。またホームランチも拡張し、隔週でミーティングを行うこととした。異年齢のホームの可能性をより追求していきたい。

### <3.3 在籍数の推移>

募集の状況については、<4.1 募集>に記述してあるように幼稚園・義務教育学校共に3倍程度の倍率となっており、在籍数の増加に寄与している。在籍者の年度途中での転出は、2022年度よりは減少しているが、個別の家庭の事情もあることから今後も一定数の途中転出は発生すると予想している。2022年度から2023年度にかけて6年生から中学生になるタイミングでの近隣の中学校への転出が5名発生したことは、中学卒業後の進路への不安が背景にあった。2023年度は6年生やその保護者向けに、風越での7年生以降の学びについてや、卒業生やその保護者とのコミュニケーションする場を設けたりしたことで、6年生から中学生になるタイミングでの近隣の中学校への転出は1名となった。保護者が日常の学びの様子を見学し対話できる「うろうろ風越」の実施回数を増やしたり、年度末の「自分プレゼン」を我が子以外の子どもの学びも知れる機会（「わたしアウトプットデイ」）にするなど、保護者が学園全体の子どもの学びの日常を知ることを通じて、在籍途中の転出をできる限り減らしていくよう施策を進める。

(表) 在籍数と充足率の推移

		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
		4月1日	3月31日	4月1日	3月31日	4月1日	3月31日	4月1日	3月31日
幼稚園 定員:72	在籍数	48	48	69	64	63	59	59	59
	充足率	66.7%	66.7%	95.8%	88.9%	87.5%	81.9%	81.9%	81.9%
義務教育 学校 定員:315	在籍数	146	144	194	187	228	221	224	219
	充足率	46.3%	45.7%	61.6%	59.4%	72.4%	70.2%	71.1%	69.5%
合計 定員:387	在籍数	194	192	263	251	291	280	283	278
	充足率	50.1%	49.6%	68.0%	64.9%	75.2%	72.4%	73.1%	71.8%

(表) 転退出状況の推移

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
保護者の転勤・転職や就労 状況変化	幼稚園	0	5	2	0
	義務教育学校	0	4	0	0
健康上の理由	幼稚園	0	0	1	0
	義務教育学校	0	0	0	0
海外留学	幼稚園	0	0	0	0
	義務教育学校	0	0	1	1
学習環境の変化を求めて	幼稚園	0	0	1	0
	義務教育学校	2	3	6	4
その他	幼稚園	0	0	0	0
	義務教育学校	0	0	0	0
計		2	12	11	5

## 4. 教育関連活動

### <4.1 募集>

- 募集対象を幼稚園は年少と年中、義務教育学校は1年生・6年生・7年生の募集を行った。
- 幼稚園では募集人数を大幅に上回る応募があったが、昨年度比の出願数はマイナス10人だった。義務教育学校では、2022年度より募集学年が増えた(6年生)にも関わらず、出願数はマイナス約20名だった。また入園金・入学金振込後の辞退が新年少1名・新1年1名あったため、合格者数と在籍数に齟齬が発生している。近隣に私学の新設校が増えている影響は今後も考えられる。
- 2023年度から子ども選考を保護者選考の前に行い、子どもの様子を保護者ともやりとりできる状況にした結果、選考フローに改善があった。2024年度に実施する入試についても同様の順序で計画している。
- 8月の学園説明会(オンライン)と同日の午前中、初めての校舎見学会を実施した。
- 2022年度まで実施していたオンライン授業見学は開催しなかった。業務負荷は減ったが、出願者のカリキュラムへの理解度が下がったように見受けられ、2024年度は校舎見学会等での工夫を予定している。

(表)実施内容

	内容	日程等
広報	地域学校開放	6月1,2日の放課後 2日間で約220名の来校あり。2日目は大雨、また地域の制限を解いたところ遠方からの団体見学あり。
	校舎見学会・学園説明会	8月7,8日の2日間実施 校舎見学会(午前):182家庭の申込 学園説明会(午後・オンライン):257家庭の申込
	子どもによる子どものための説明会	8月8日実施(オンライン):50家庭の申込
選考	出願受付	9月21日～9月23日
	子ども選考	11月5日
	保護者選考	11月9,10,13日
	選考結果通知	11月17日

(表)応募者数と合格者数の推移

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
幼稚園	対象学年	年少、年中、年長		年少	年少、年中	年少、年中
	応募者数	110	151	88	73	63
	合格者数	48	37	20	20	23
義務教育学校	対象学年	1~7年生			1,7年生	1,6,7年生
	応募者数	272	280	226	119	100
	合格者数	149	53	41	33	34

## <4.2 寄付募集>

- 計算書類上は2023年度約7,700万円となったが、ふるさと納税を含めた実質的な寄付額は、約9,700万円となっている。
- 用途指定のメニューを増やした結果、「スタッフの学び・はたらく環境づくり」を指定した寄付が集まっている一方で、他の用途はあまり選択されなかった。
- 寄付オペレーションの面では、領収書・お礼状発行などの必要作業はスムーズに行えたが、引き続き1名体制(他の業務との兼任)となり、寄付集めに積極的にアクションを起こせなかった。2024年度は2名体制で実施できるように体制を整えている。

(表)寄付金年度推移(2021~2023年度)

年度	種別	ふるさと納税 <sup>15</sup>		単発寄付		継続寄付		合計金額
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	
2021	法人	-	-	6件	13,144,000円	-	-	79,070,200円
	個人	66件	22,756,000円	10件	42,798,000円	274件	1,510,000円	
2022	法人	-	-	18件	19,000,000円	-	-	86,682,200円
	個人	50件	25,150,000円	41件	40,393,000円	348件	2,139,000円	
2023	法人	-	-	20件	14,290,000円 <sup>16</sup>	-	-	97,269,000円
	個人	30件	17,177,000円 <sup>17</sup>	26件	64,040,000円	294件	1,762,000円	

<sup>15</sup> ふるさと納税は2023年12月末までの金額。また、ふるさと納税による寄付金は、計算書類上は、「補助金収入」「市町村補助金収入」に計上される。(交付申請した金額のみ計上)

<sup>16</sup> 法人寄付の内、受配者指定寄付金制度利用による寄付は2021年度2,110,000円、2022年度7,000,000円、2023年度3,400,000円。日本私立学校振興・共済事業団に全額プールされている。

<sup>17</sup> ふるさと納税の内、5%は町に配分されるため、実際の寄付金額は2021年度21,618,000円、2022年度23,891,000円、2023年度16,318,000円となる。

<参考>2023年度実績:用途別

用途	金額
教育施設・学びの環境づくり <sup>18</sup>	3,037,000円
授業料等減免制度	18,041,000円
探究・プロジェクトの学び <sup>19</sup>	150,000円
ライブラリーの充実	0円
スタッフの学び・はたらく環境づくり	19,140,000円
アドベンチャーカリキュラム	0円
森と循環する環境づくり	1,000,000円
地域・公立学校との連携・協働	0円
用途指定なし	55,901,000円
合計	97,269,000円

<sup>18</sup> 旧項目「軽井沢風越幼稚園(施設充実等)」を用途指定した寄付金937,000円を含む

<sup>19</sup> 用途から長野県科学振興会助成金150,000円を探究・プロジェクトの学びに含める

### <4.3 授業料等減免制度>

2020年度から2024年度(2023年度中に利用申請)の制度利用者の推移は次の通りである。2024年度から「2019年4月1日時点から現在まで志願者および保護者が軽井沢町または御代田町に居住していること」という条件を撤廃したことにより、制度利用者数は増加し過去最多の37名となった。18名が昨年度からの継続、16名が在校生からの新規申請、3名が新入学。原資をベースにして申請者全員が制度を利用できるように審査会で議論を行った。その結果、在校生からの新規申請は、入学当初から通学できている実態をふまえて希望減免額より下回る金額で採択している。

(表)

年度	利用者数	減免率	減免額	児童生徒人数	利用率
2020	19名(18家庭)	全額(19名)	1,710万円 (19名分の入学金・施設料を含む)	146名	13.0%
2021	26名(21家庭)	全額(26名)	1,660万円 (5名分の入学金を含む)	194名	13.4%
2022	29名(22家庭)	1/3(1名) 半額(4名) 全額(23名)	1,645万円 (4名分の入学金を含む)	228名	12.2%
2023	20名(15家庭)	1/3(1名) 半額(3名) 全額(16名)	1,085万円 (1名分の入学金を含む)	224名	8.9%
2024	37名(27家庭)	1/3(11名) 半額(8名) 全額(18名)	1,749万円 (3名分の入学金を含む)	233名	15.9%

- 2023年度に集まった原資は、17,202,000円。授業料等減免制度を用途としたふるさと納税(2023年1~12月)は15,938,000円(町への配分5%を差し引き済)、直接寄付(2023年度の単発、継続)は1,264,000円。
- 2025年度以降(2024年度中に利用申請)の原資(授業料等減免制度を用途指定した寄付金の残額)は約3,300万円で、約2年分は確保できている。

## <4.4 主催事業>

- コミュニティ形成事業

風越みらいツクール...18~24才の若者16名が参加、8年生(現9年生)25名と11名の保護者と6月と12月の2回に分けて実施した。多様な大人と関わり・混ざりながら、それぞれにとっての「になる」を深める時間となった。運営にはスタッフと外部ファシリテーターが関わっている。2023年度で一旦終了。

- 視察・研修事業

- 団体向けの学校案内と研修...風越学園で起きていることを触媒に、これからの学びの場を考えるきっかけとなるような場として、自治体・企業等の団体向けと個人・グループを対象に研修を実施。2023年度は、2,715,500円(23件)の売上となった。
- 学びのかたちをつくる会...教育環境と学びの関係について教育実践者と建築の専門家が混ざって学ぶ2日間のワークショップを環境デザイン研究所代表の仙田満氏と協働で2023年5月26,27日に開催。6社から170万円の協賛金をいただき、106名の参加者に10名のゲストを迎えた。講師料や経費を差し引いて十分黒字での運営が可能なのことがわかったので、今後もこのような形の場を開いていける可能性が確認できた。

- 森と循環する環境整備事業

2023年度は、子ども自身が環境づくりへのオーナーシップを持つことを重点として取り組んだ。2022年度につくった小川を3ヶ月かけて補修するなどじっくり時間と手間をかけてきた。また、主に幼稚園の子どもたちがフィールドとしている校舎と森をつなぐエリアの遊び環境を充実させるために登園の小径と柳の家をつくった。

重点項目としていた土の仕組みづくりについては、7・8年生のテーマプロジェクトとして鶏を起点にした土の仕組みに触れる機会をつくったが、堆肥場をつくるころまでには至らなかった。2024年度の取り組みに活かしていく。

また、子ども主導のプロジェクトとして畑の土を馬が耕す「馬耕」と森から木材を運び出す「馬搬」を行い、人以外の生き物と支えあうくらしのあり方にも目を向けた。

- 軽井沢風越ラーニングセンター(研修・研究センター事業)

- プログラム開発  
長野県との連携協定事業の一環として「学習者中心の学びのためのスクールベースの教師教育プログラム」に、1期生(長野県研修派遣教員2名)への研修を行い、評価を通じて教師教育プログラムの改善をはかった。
- 実践ラボ  
スタッフが自分の研究テーマを外部に開いて学びを研鑽するために、実践ラボを実施。2023年度は4名のスタッフが実施した。
  - 「中学校数学科において目指すべき子どもたちの学びをみんなで考える」(佐々木陽平:2023年11月17日)
  - 「概念で深める探究の学び in 科学者の時間」(井上大智:2023年12月15日)
  - 「プロジェクト学習を支えるものづくり学習環境とは？」(山崎 恭平:2024年2月21日・3月22日)
  - 「子どもが自由になるための環境の設定と大人の関わりを考える」(岡部哲:2024年3月26日)
- 実践研究支援  
実践研究のサポートを行い、スタッフの学会発表を支援した。

- 研究テーマ「エンジニアリングデザインプロセスを活用した教科横断的なプロジェクトにおける生物育成に関する技術リテラシー教育の実践」(日本産業技術教育学会第66回全国大会、山崎恭平)
  - 自治体研修
    - 長野県教育委員会 探究Frontier研修支援
    - 長野県松本市立中山小学校 校内研修支援(リーディングスクール支援)
    - 長野県松本市立丸の内中学校・開智小学校・田川小学校支援(パイオニア校支援)
  - 短期研修
    - 鳥取県伯耆町立二部小学校に在籍する教諭の5日間の短期研修の実施
  - プロジェクトの学びに関わる出版
    - 『プロジェクトの学びでわたしをつくる』の増補改訂版の出版。(2,000冊制作)24年3月までのバリューブックス経由の売り上げは616冊1,897,280円。(書店手数料なし)
    - 増補改訂版の出版に向けて、旧版で4件のオンライン読書会を実施。
  - スタッフ研修
    - 毎週水曜日の研修(スイゴゴ)のうち、「専門技能向上」研修の企画・運営を隔週で担当した。また個別のスタッフのニーズに応じた研修をオーダーメイドで行った。

## <4.5 保護者との協同>

- **かぜのランチ**
  - 受注管理、納入業者への発注、販売、保護者や子どもたちとのやりとりなどすべて保護者有志による運営で2021年4月から本格的にスタートした「かぜのランチ」は、地元のいくつかの飲食店に協力してもらいながら、月ごとの事前予約制で週2回(月・木)の販売を1年生以上に実施している。
  - 安定的に運営されており、運営・会計・当日サポートなど役割や対応内容を分担し、新しいメンバーも参加しやすい仕組みづくりを積極的に行っている。保護者同士の繋がり場のとしての価値も生まれてきていることで、協力者としての保護者も増えている。
  - 授業中にもかかわらず子どもの行列ができるなどの課題に対して、スタッフと連携をとりながら課題解決に動いた。2024年度に向けては、食材値上がりによる料金の見直し、集金方法の変更など運営の改善を行っている。
- **ほぼ月イチコトコの日**
  - 「人と人の関係性を豊かにする優れたツール」である美味しいものと調理という活動を通して、保護者同士が繋がりながら、1年生以上の子ども、スタッフが全校で温かい料理と一緒に食べる「ほぼ月イチカレーの日」が2023年2月にトライアルを行い、2023年度は6回実施された。
  - カレーをはじめ、白米のみを持参すればお昼ご飯になるメニュー(ハヤシライス、中華丼など)のバラエティーも増え、多くの子どもとスタッフがこの日を楽しみにし、コトコの日朝にスープジャーが並ぶ姿は定番の光景となった。また、異年齢ホームごとに保護者を募っているため、調理をしながら学年の離れた保護者同士のつながりも生まれている。
- **放課後**
  - 2023年度からは「放課後村」を改め「放課後」とし、一部の保護者メンバー・スタッフに過度な負担が偏ることがないように固定的な時間シフト等は省き、子どもたち自身が過ごす時間について考えられるよう委ねる部分を増やしていった。
  - 保護者の企画については、調理活動を水曜日に限定する等、時間や場所の枠を整えたことにより、キッチンを中心に利用が活発になった。また「もじもじクラブ」など定期開催の企画を含めて活動の幅や内容が広がった。
- **裏風越**
  - 「誰かのお母さん・お父さん」としてではなく、保護者同士が一人の大人としての出会う機会やつながりをつくりたいという思いから、風越学園の保護者・スタッフによる「大人が学ぶ・大人が遊ぶ一裏風越」を2022年6月からスタートした。
  - 2023年4月～2024年3月の期間で15の企画が開かれ、110人の保護者の参加があった。スタッフ発の企画も増え始め、スタッフと保護者が出会う機会にもなりつつある。
- **だんだん風越**
  - 保護者とスタッフが出会い、学校づくりについて連携するための場として2020年度より開催している「だんだん風越の日」について、2022年度の中断をはさみ、2023年度は再開し、4回実施した。各回5～10件ほどの企画が子ども、保護者、スタッフから生まれ、異学年の保護者を繋ぐ豊かな交流の場となった。
  - 「信州まなび円卓会議第5回意見交換会」などの地域教育委員会との連携では、子どもがファシリテートして闊達な意見交換の場を作り上げた。
  - 理事長・校長と保護者とのコミュニケーションの場を設定し、学園についてそれぞれが今感じていることや、考えていることをやりとりする時間がうまれたことは新たな動きとなった。スタッフ、保護者の垣根をこえた学園をつくる大人のコミュニティ作りが今後も重要であると考えている。
- **その他**

- 日常的な学校の様子が見えにくいという声があり、Typhoonの「毎日うろうろチャンネル」を通して、日常の子どもたちや学校の様子を家庭に共有してきた。
- 新入園入学の子どもたちと保護者を、在園在学の子どもと保護者・スタッフで迎えて交流する「かぜびらきの日」の日程を、年度末から新年度が始まる直前に変更した。新入園入学の家庭が引っ越しを終えて、落ち着いて参加できることを目指す。
- 56年生や78年生のテーマプロジェクトを中心に、保護者と協同しながらプロジェクトを設計、実施する機会が複数事例あった。また、9年生の「そつたん(卒業探究)」では、子どもたち一人ひとりのプロジェクトへのアドバイスやメンタリング等で多くの保護者の協力を得た。
- 新入園保護者向けのプログラム「根っこが育つ、出会いの時間」を開催。12年間のスタートとなる保護者同士のつながりを育むこと、子どもが育つための大人の関わりについて共通したまなざしを育むことを目指した。

## 5. 運営

- 開校3年間の実績をもとに各領域で業務整理や見直しを行い、現状に合わせて一定のオペレーション改善を測ることができた。2024年度は新プロジェクトに注力できるよう、定常業務をさらに滞りなく遂行していく。

### <5.1 財務・会計・経理>

- 中間監査・期末監査は滞りなく実施された。財務分析・キャッシュフローの流れも整理は進んでいるが、資金の入りと出を予測した打ち手を講じられるところまではいっていない。
- スタッフに予算執行の判断材料が渡るように、財務状況の共有情報・方法が見えてきたので、2024年度に実施していく。

### <5.2 人事・労務>

- 労働環境改善のため、就業規則の休暇に関する規定の改定を実施。入職初年度の年次有給休暇付与日数を10日から18日に増やした。
- スタッフの自己研鑽を支援する制度「けんさんday」の内容を変更。これまで自己研鑽のための有給休暇を5日付与していたが、休みの調整負荷が高いなどの要因により、使用率が20%程度であった。2023年度から休暇の付与をやめ、一人あたり1万円～3万円の「けんさん金」の支給を行った。結果として制度利用率が54%まで上昇した。
- 当学園監事による「安心してはたらせる職場づくりアンケート」を2024年1月に実施。職場の状況把握をするとともに、管理職にむけたハラスメント研修も行った。
- 2023年度はスタッフのケアや体調の変化に対して留意していたが、病気療養のための休職があった。休職者とのコンタクトは引き続き丁寧に進めることができたが、2024年度も体調の変化などに対して早期に関わりを持って対応していく。
- 人事制度の策定は2023年度に完了しなかったため、2024年度での策定を目指す。
- 4月、7月にチームアセスメントとしてアンケートを実施。チーム状況を客観的に把握することを目的におきつつ、研修日の時間の使い方など、アンケートから見えてきた課題に関してはできることから改善を行っていった。アンケートから見えてきた引き続きの課題として、多くのスタッフが互いの仕事に対するフィードバックの不足感を持っていることがあげられる。互いの仕事に関心を寄せる、関わる、学ぶ、といったことをポイントに2024年度からの取り組みにして反映していきたい。
- 採用活動は6月に募集をスタートし、書類選考、面接合宿、授業見学、オンライン面接を経て10月に内定を出した。結果として、義務教育学校教員3名、幼稚園教員2名、リソースセンター職員2名、サポートスタッフ3名を採用できた。契約期間の都合などにより、24年度以降に向けて採用人数が多くなった。採用過程では、面接合宿の可否にかかわらず、面接合宿参加者同士で振り返りを共有しあう会をオンラインで実施。選考するだけで終わらせずに、ともに教育現場に携わる者同士で気づきや問いを深める機会となった。また、採用決定者には、4月の入職前に、1月～3月の間で新入職スタッフと既存スタッフのオンラインでの交流会を実施し、少しでも勤務までの不安を和らげることができるようコミュニケーションを行った。

### <5.3 施設・設備>

- 光熱費が高騰する中、電力においては中部電力へ契約を変更して以降、支出が安定するようになった。また、総使用電力量も前年比を下回ることができた。
- 保守営繕の標準化・効率化のために作成したマニュアルに基づきながら、子どもたちの安心安全を最優先として日常業務のオペレーションを滞りなく回すことができた。中長期の保守営繕計画については引き続き検討事項とする。

- 引き続き軽井沢町のふるさと寄附金を活用し、「森と循環する環境整備事業」として小川など外環境の整備を進めることができた。<sup>20</sup>

## <5.4 総務>

- バックオフィス業務にてシステムの導入を行い、主に情報システム周りの整理を実施した。その他、教材備品や消耗品の取り扱いについては4年間の実績を元にルーティン業務化を進めることができた。
- 子どもの学習環境を中心に既存設備の増補対策を実施した。モニター等の授業備品や防寒対策のためストーブやカーテンの必要数を改め、再配置した。
- 学びと働く環境については、2023年度に開催された「学びのかたちをつくる会・まわる・まざる・まなぶ」も参考にしながら、具体的な設計・アクションは2024年度に継続する。

## <5.5 校務>

- 校務(ランチ)の担当チームでの活動は、定期ミーティングを設けずにプロジェクトベースでの動きに変更した。2022年度までは毎週ミーティングを行っていたが、校務のルーティンを実行すること、改善課題のあるポイントに絞っての活動とすることで校務を適切に遂行しつつ、スタッフの業務軽減に取り組んだ。
- Typhoonの機能を活用し、出欠管理と基本情報収集において時間コストの削減を実現した。また外部機関とも連携を行いやすくなるよう、新機能「保健調査」の開発をスタートし、2024年度に向けて実装を完了した。
- 保護者とのプロジェクト
  - かぜのランチ、放課後<sup>21</sup>

## <5.6 法務>

- 以下の規程を新規策定、改定、廃止した。
  - 学則(改定)
  - 園則(改定)
  - 就業規則(改定)
  - 賃金規程(改定)
  - 出張・引率規程(改定)
  - 懲戒の手続に関する規程(新規策定)
- その他の規程についても、引き続き整備や見直しを実施していく。

## <5.7 広報>

- 2024年3月末時点で573本のかぜの一と記事がWeb上に公開されており、23年度に新しく増えた記事は72本だった。2024年3月のメールマガジンは4,483人に配信している(2023年3月は約4,200人)。
- スタッフは担当ラーニンググループによって記事の数のばらつきはあるものの、外部の書き手にも支えられ安定した本数の記事を公開できている。

## <5.8 情報システム>

- スタッフ向け研修を年に2回開催した。
  - 4月:入職者+任意スタッフに内部情報システム講座

---

<sup>20</sup> 「4.4 主催事業」参照

<sup>21</sup> 「4.5 保護者との協同」参照

- 7月:基本的な情報セキュリティ対策
- デバイスワーキンググループ(2022年発足)を継続し、子どもの12年間のデバイスとの関わりについて検討を実施した。デバイスを「文化を促進する・価値を共有するためのツール」と位置付け、2024年度には中学生のBYOD化をスタートする。
- OA機器については消耗の激しいもの、減価償却期を迎える備品を中心に、2024年度以降の更新や買い替えの際に基準となる数量を決定し、比較検討を進めている。
- 情報システムに従事するスタッフの増員は行わず、システムの導入によりバックオフィス業務内容を整理した。主にスタッフの入退職時のアカウント整備やデバイス備品管理等をターゲットとし、2024年度には内製化を行う。

## <5.9 渉外>

(行政)

- 各種調査や補助金の対応については、開校以来滞りなく実施できている。

(地域)

- 補助金の加算対象となるような地域に開かれた子育てイベント・勉強会の開催は叶わなかったが、2024年度中の実施を検討している。

以上

## 参考資料

### <大切にしたいこと>

#### 子どもも大人も、つくり手である

軽井沢風越学園は、子どもも大人も「つくる」経験を、じっくり、ゆったり、たっぶり、まざって積み重ねていきます。

本気で手間をかけて「つくる」ことに没頭し、ときには不安や不安定さを味わいながら「つくる」ことに挑戦していきます。

私たちは子どもこそがつくり手であることを信じています。

ここでいう「つくる」は物理的なものや学習の成果物だけにとどまりません。安全・安心な場を自分たちでつくる、学びをつくる、自分たちの学校をつくる、コミュニティをつくる、仕組みをつくる、ルールをつくる、自分をつくる。つまり、「わたし(たち)の未来をわたし(たち)でつくる」冒険をするのです。

子どもたち、スタッフ、保護者、地域の方々など、軽井沢風越学園では誰もががつくり手です。

「つくる」ことを通じて、「自由に生きる」ということと「自由を相互に承認する」ということを繰り返し試していきます。そうすることで、1人ひとりが幸せになり、幸せな社会をつくっていくのです。

#### 「 」になる。

自分が将来どんな<私>になるか、どんな<私>になりたいか、あらかじめ知っている子どもはいません。他者との関係の中で、たくさんの「つくる」経験を試し、失敗と成功を積み重ねた結果として、私らしい私の輪郭が築かれていきます。

軽井沢風越学園で、じっくり、ゆったり、たっぶり、まざって過ごした子どもたちは、結果的に様々な「 」になる。軽井沢風越学園で、じっくり、ゆったり、たっぶり、まざって過ごした子どもたちは、「 」にどんな願いを込め、どんな「 」になっていくのでしょうか。それを決めるのは、子どもたち自身です。

もともと備わっている自分らしさを大切にしながら、よりよくあろうとする子どもたち同士が共に試行錯誤し、影響し合うことで、自分一人ではたどり着けない世界が拓かれるための学校であり、スタッフでありたいと考えます。

#### 大人も学び続ける

軽井沢風越学園におけるスタッフや保護者など大人は、どのような存在なのでしょうか。スタッフたちはそれぞれの現場で実践し続けてきましたが、まだ明確な答えを見出しているわけではありません。

ひとつだけはっきりと言えることは、大人も学び続ける存在でありたいということです。学校づくりはずっと続いていくプロセスです。常に「本当にこれでいいのかな」と前提を問い直し、変態し続けること。そのための手間を惜しまないこと。なにより学ぶことや変わることをおもしろがっていること。

私たちは、これから集う多くの仲間と子どもたちと共に、試行錯誤し、「よりよくあろう」とし続けていきます。

<法人概要>

法人名	学校法人軽井沢風越学園
設置校	軽井沢風越幼稚園(幼稚園) 軽井沢風越学園(義務教育学校)
所在地	〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町大字発地1278-16
理事	本城慎之介(理事長) 岩瀬直樹(校長) 遠藤綾(園長) 佐々木知範(事務局長) 井手直行 紅谷浩之 松平誠 山崎繭加
監事	丸田由香里 弓場法
評議員	青木将幸 荒井英治郎 今井悠介 大野暉 大豆生田啓友 菅谷貴子 杉浦紘子 土屋芳春 西村明子 原田英治 佐々木陽平 宮城治男 (岩瀬直樹) (遠藤綾) (佐々木知範) (紅谷浩之) (山崎繭加)

(2024年3月31日現在)

<教職員組織>

全体 59名	法人 (10名)	正職員 有期契約職員 業務委託 その他	4名 2名 3名 1名
	幼稚園・義務教育学校 (47名)	正職員 有期契約職員 パートタイマー職員 業務委託	30名 8名 6名 3名
	自治体派遣 (2名)	長野県教育委員会	2名

(2024年3月31日現在)

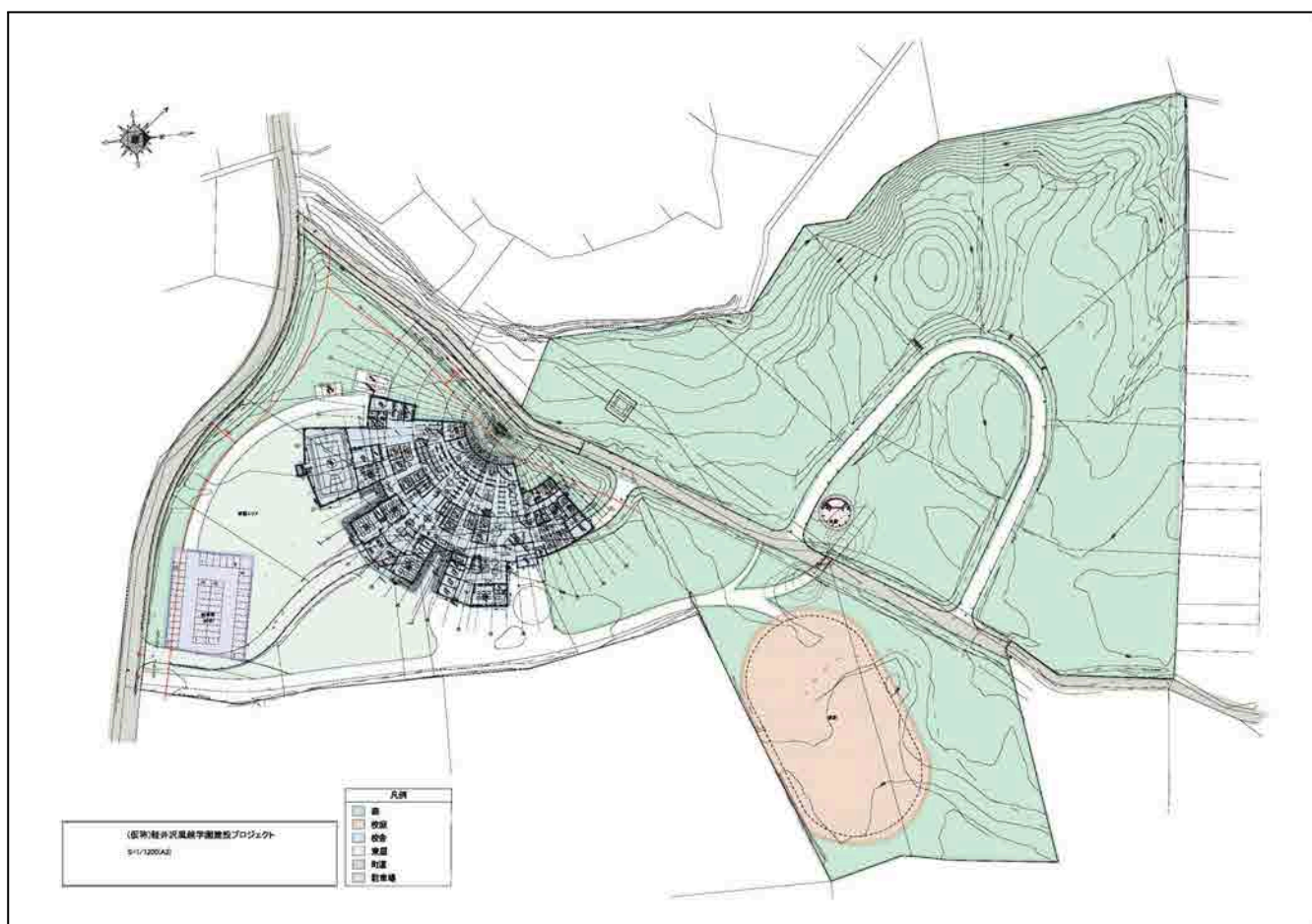
<在籍数>

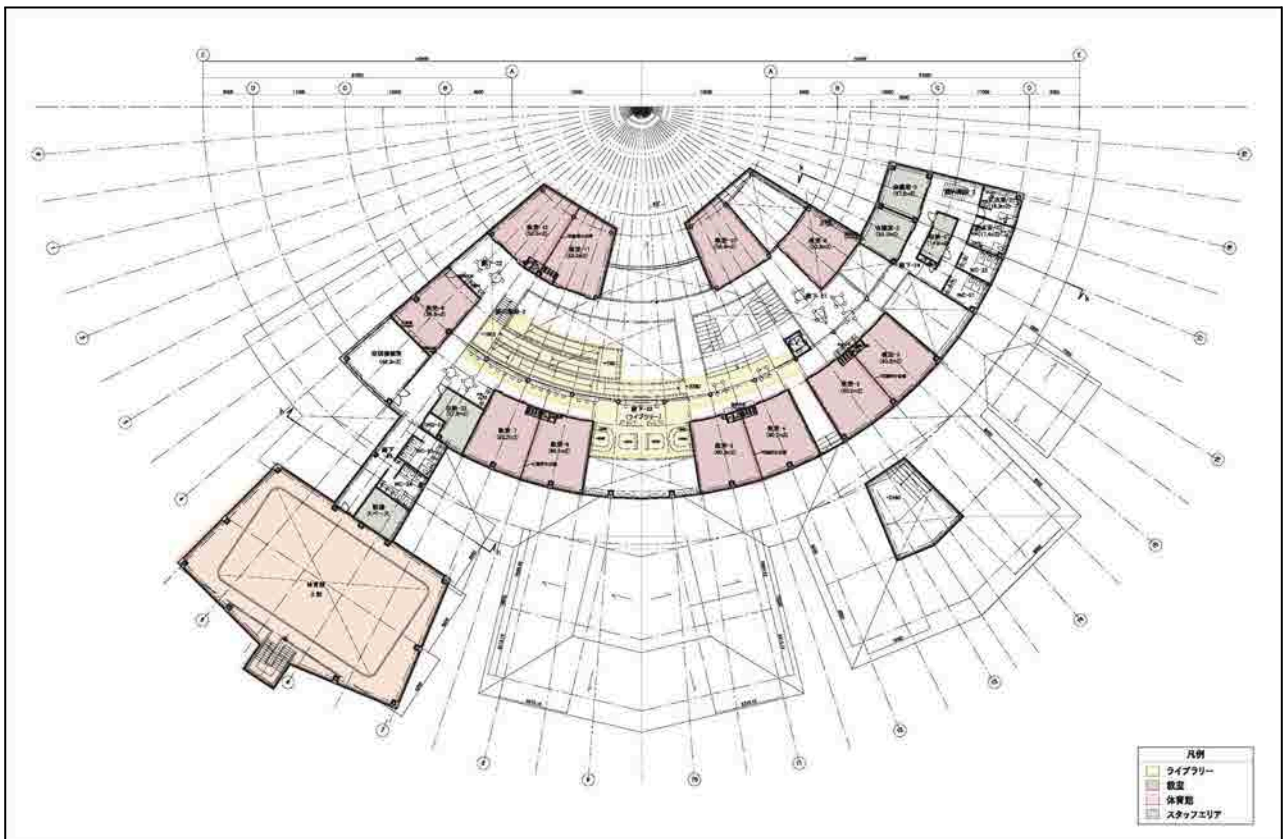
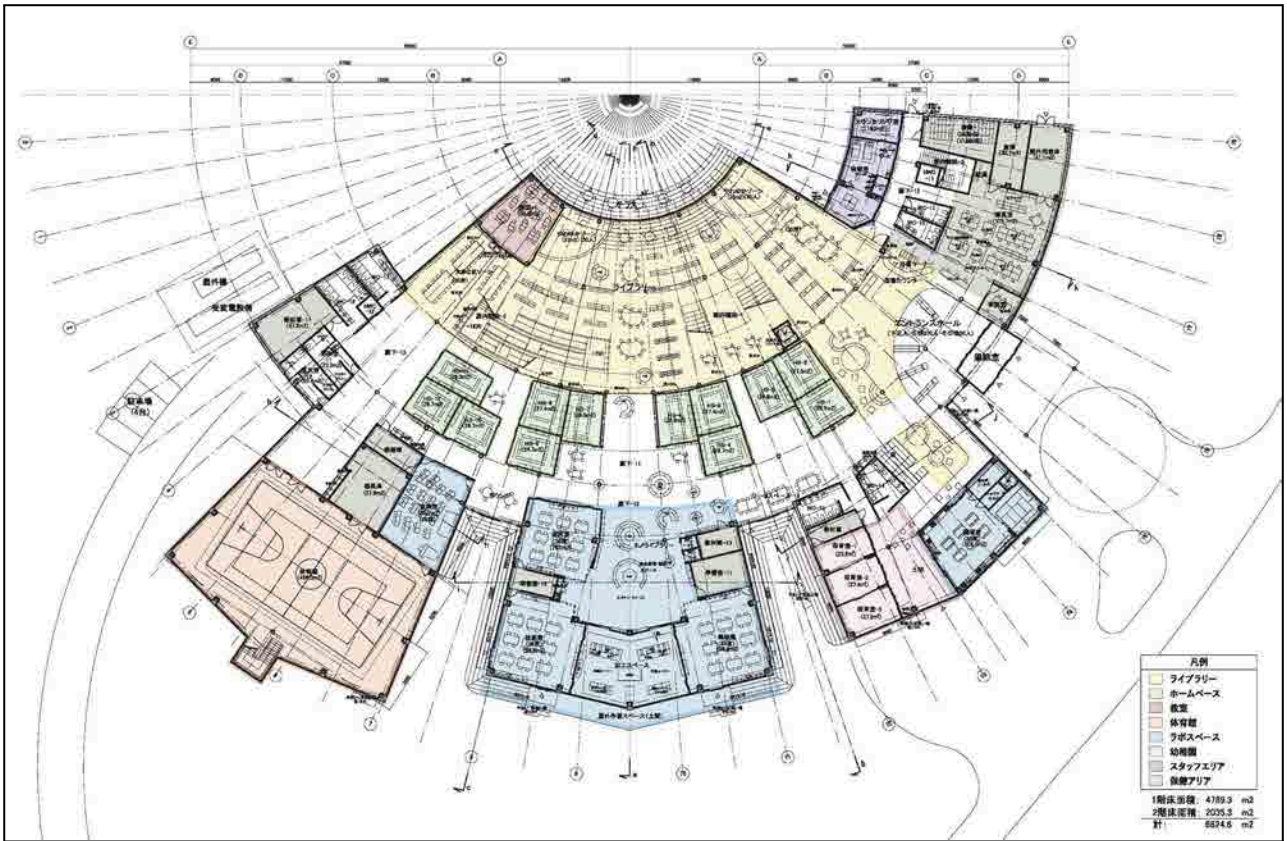
	学年	定員	在籍	充足率
幼稚園	年少	24	17	70.8%
	年中	24	22	91.7%
	年長	24	20	83.3%
	小計	72	59	81.9%
義務教育学校	1年	35	28	80.0%
	2年	35	27	77.1%
	3年	35	29	82.9%
	4年	35	30	85.7%
	5年	35	22	62.9%
	6年	35	22	62.9%
	7年	35	20	57.1%
	8年	35	25	71.4%
	9年	35	16	45.7%
	小計	315	219	69.5%
	合計	387	278	71.8%

(2024年3月31日現在)

## <施設>

構造	S造 階数2
敷地面積	約69,742.68㎡
建築面積	約 5,322.74㎡
延床面積	約 6,771.52㎡
設計・管理	株式会社環境デザイン研究所
施工	北野建設株式会社
工期	2018年11月2日～2020年2月19日





## <2023年度学校評価 結果概要>

### 1.学校評価の概要

子ども・保護者・スタッフを対象にした質問紙法による学校評価を2023年1～3月に実施した。あわせて、昨年度との差も算出した。

### 2.子どもを対象にした学校評価

実施日:2023年12月11日～12月21日  
対象:義務教育学校1～9年生 219人  
実施方法:義務教育学校1～4年生 質問用紙の配布、5～9年生 Google Forms  
回答人数 188人  
回答率 85.8%(2022年度回答率90.2%)

#### 学年毎の回答人数と回答率

	対象人数	回答人数	回答率
1年生	28	27	96.4%
2年生	27	24	88.9%
3年生	29	26	89.7%
4年生	30	30	100.0%
5年生	22	16	72.7%
6年生	22	21	95.5%
7年生	20	12	60.0%
8年生	25	18	72.0%
9年生	26	14	87.5%
計	188	219	85.8%

## 質問項目と回答

(質問項目)

1. 軽井沢風越学園にいる時に、火事や地震がおきたら、どうしたらいいかわかっている。
2. 軽井沢風越学園は、きれいに掃除され、整理整頓されている学校だ。
3. 軽井沢風越学園のスタッフは、わたしのことを応援してくれている。
4. 軽井沢風越学園は、安心してすごせる学校だ。
5. わたしには、友達や大切な人がいる。
6. わたしには、困ったときに助けてくれる人がいる。
7. わたしには、いろいろなよいところがある。
8. わたしは、わたしのことが好きだ。
9. わたしの心とからだは、元気なことが多い。
10. わたしは、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んだ。
11. わたしは、この一年間で成長した。
12. 一年間をふりかえると、「しあわせな一年間だったなあ」と思う。
13. もう一度入学するならば、軽井沢風越学園を選ぶ。

(回答)

質問1～12:

4段階評価(最低1～最高7)。「わからない」の選択肢も加えた。

質問13:4段階評価(最低1～最高7)

## 集計

(質問項目1～12)

1. 項目毎に平均を算出した。
2. 平均は、「そう思う(7点)」「だいたいそう思う(5点)」「あまりそう思わない(3点)」「そう思わない(1点)」として算出する。

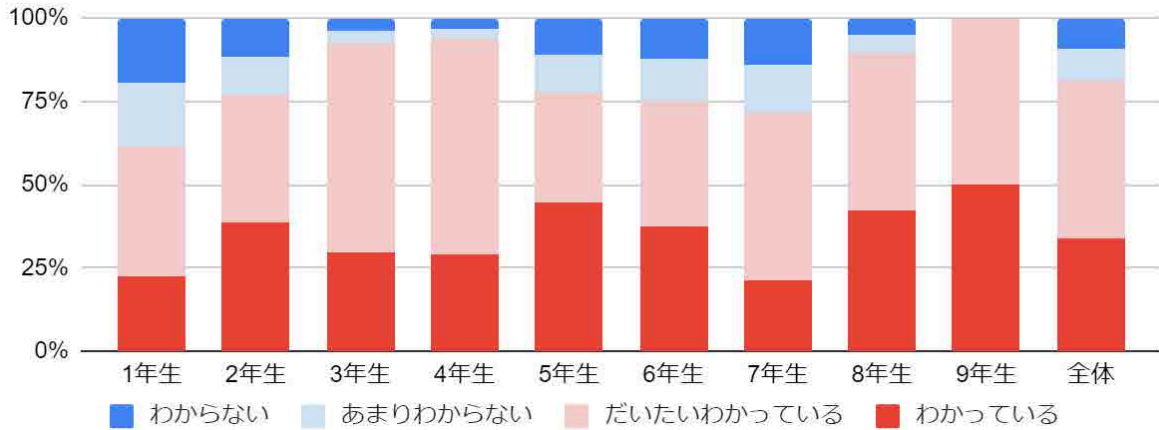
(質問項目13)

「選ぶ(7点)」「たぶん選ぶ(5点)」「たぶん選ばない(3点)」「選ばない(1点)」として平均を算出した。

## 集計結果

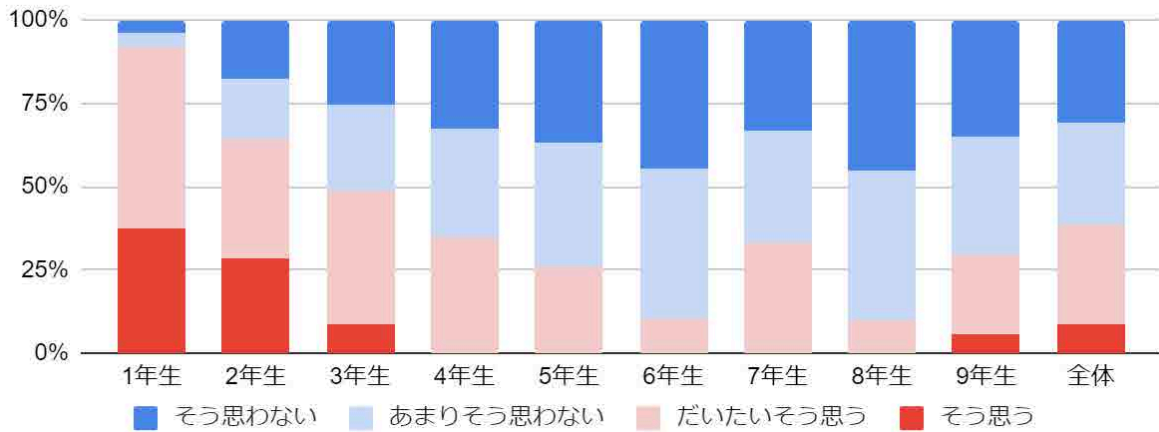
質問項目毎に学年別で、回答人数、平均(1～7)を算出した。また2022年度との差を算出した。昨年度との差は、例えば「昨年度の1年生と今年度の2年生」というように比較した。平均が3.5以下のものを■で印した。

1) 軽井沢風越学園にいる時に、火事や地震がおきたら、どうしたらいいかわかっている。



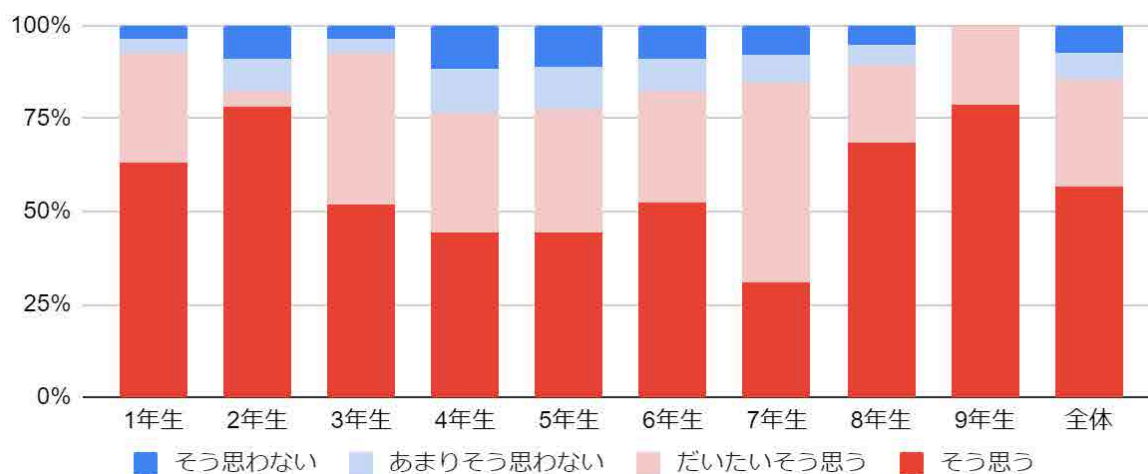
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
わかっている	7	10	8	9	8	9	3	8	7	69
だいたいわかっている	12	10	17	20	6	9	7	9	7	97
あまりわからない	6	3	1	1	2	3	2	1	0	19
わかっていない	6	3	1	1	2	3	2	1	0	19
平均	5.1	5.4	5.5	5.5	5.8	5.6	5.2	5.8	6.0	5.5
昨年度との差		0.2	-0.1	-0.7	-0.5	0.0	-0.6	0.3	0.3	-0.3

2) 軽井沢風越学園は、きれいに掃除され、整理整頓されている学校だ。



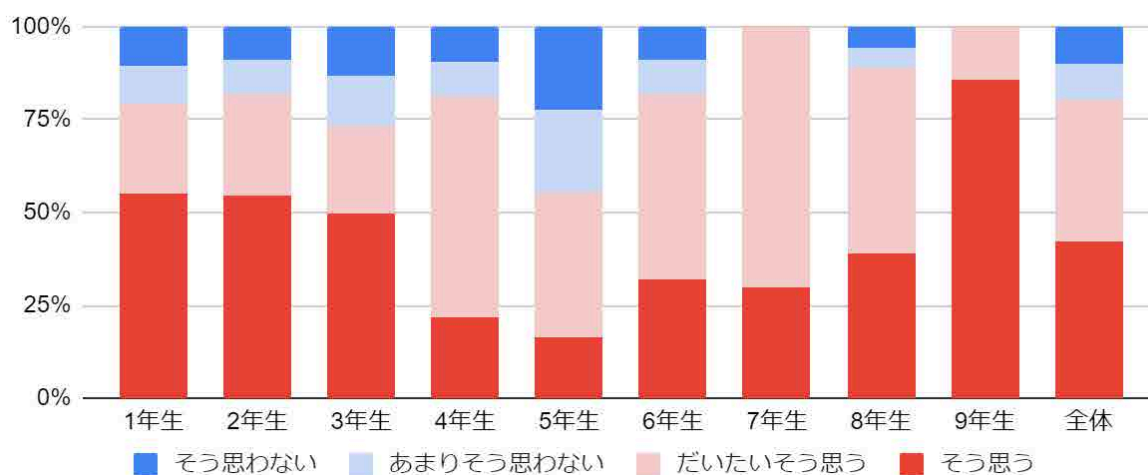
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	9	8	3	0	0	0	0	0	1	21
だいたいそう思う	13	10	14	14	5	3	5	3	4	71
あまりそう思わない	1	5	9	13	7	13	5	14	6	73
そう思わない	1	5	9	13	7	13	5	14	6	73
平均	5.2	5.1	4.5	3.7	3.1	2.8	3.5	3.2	3.4	3.8
昨年度との差		0.3	0.0	0.2	-1.0	-0.2	0.6	-0.6	0.3	0.1

3) 軽井沢風越学園のスタッフは、わたしのことを応援してくれている。



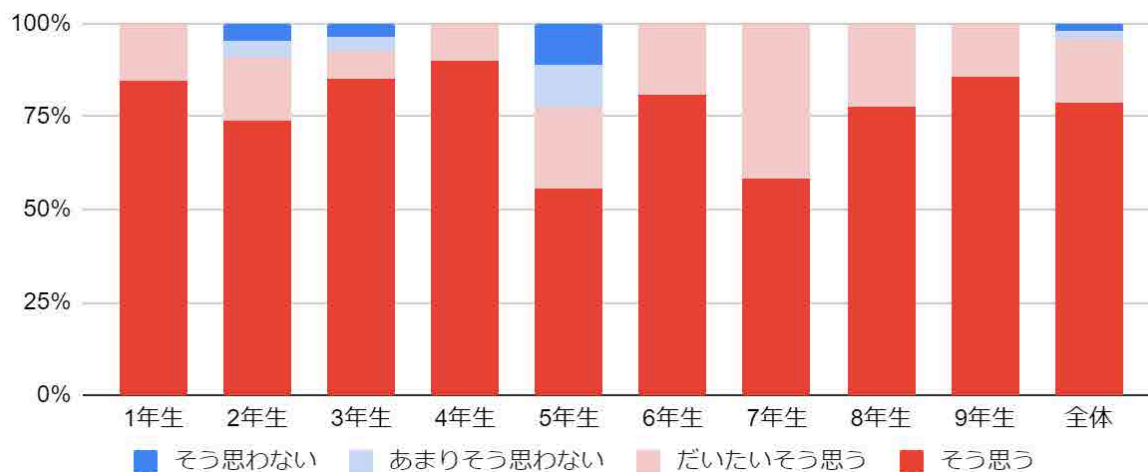
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	17	18	14	15	8	12	4	13	11	112
だいたいそう思う	8	1	11	11	6	7	7	4	3	58
あまりそう思わない	1	2	1	4	2	2	1	1	0	14
そう思わない	1	2	1	4	2	2	1	1	0	14
平均	6.2	6.3	6.0	5.7	5.8	6.0	5.5	6.3	6.6	6.0
昨年度との差		-0.1	0.6	-0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.6	0.0

4) 軽井沢風越学園は、安心してすごせる学校だ。



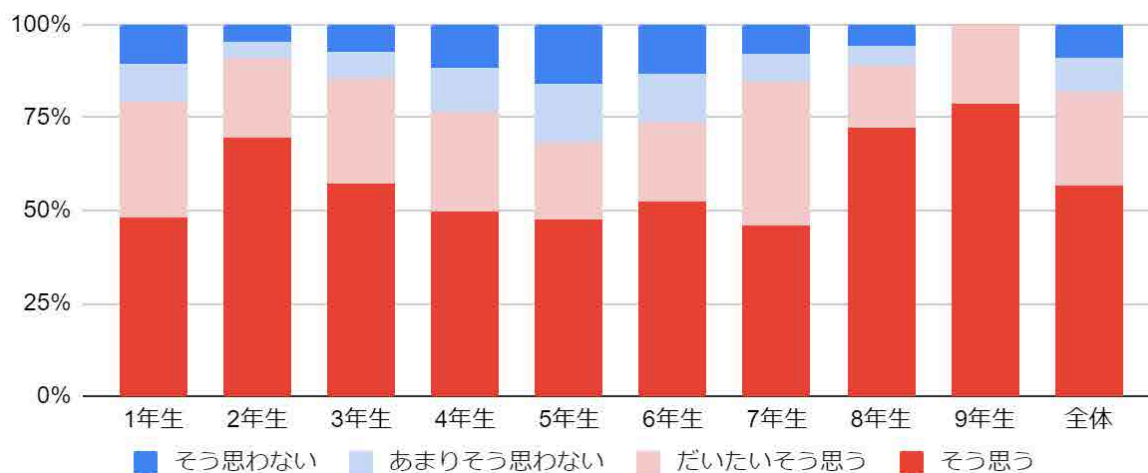
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	16	12	15	7	3	7	3	7	12	82
だいたいそう思う	7	6	7	19	7	11	7	9	2	75
あまりそう思わない	3	2	4	3	4	2	0	1	0	19
そう思わない	3	2	4	3	4	2	0	1	0	19
平均	5.8	5.3	5.8	5.1	4.4	5.3	4.8	5.4	6.7	5.4
昨年度との差		-0.3	0.5	0.3	-1.3	-0.3	0.1	-0.5	0.4	0.0

5) わたしには、友達や大切な人がある。



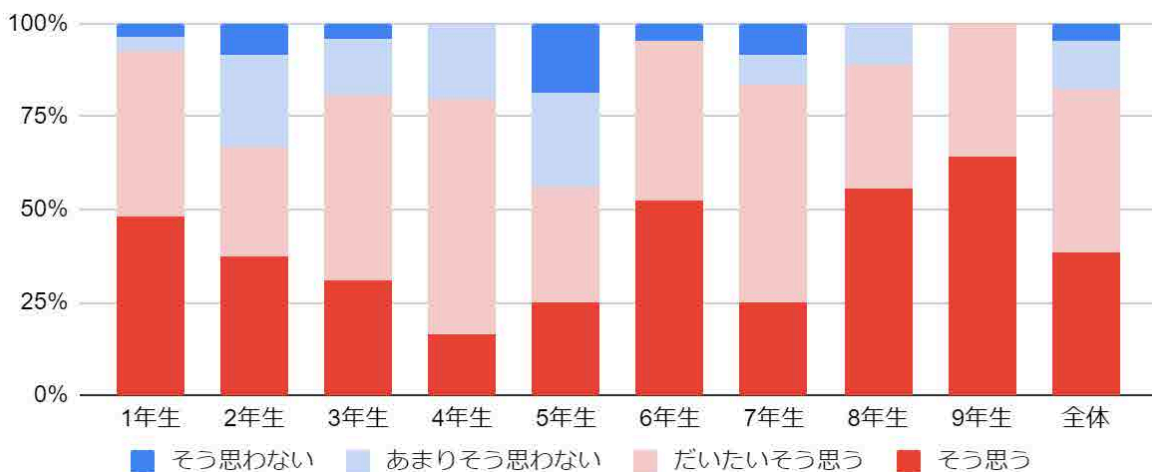
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	22	17	23	27	10	17	7	14	12	149
だいたいそう思う	4	4	2	3	4	4	5	4	2	32
あまりそう思わない	0	1	1	0	2	0	0	0	0	4
そう思わない	0	1	1	0	2	0	0	0	0	4
平均	6.5	6.2	6.7	6.8	6.0	6.6	6.2	6.6	6.7	6.5
昨年度との差		-0.5	0.4	0.1	-0.4	0.3	-0.2	-0.1	-0.2	0.0

6) わたしには、困ったときに助けてくれる人がある。



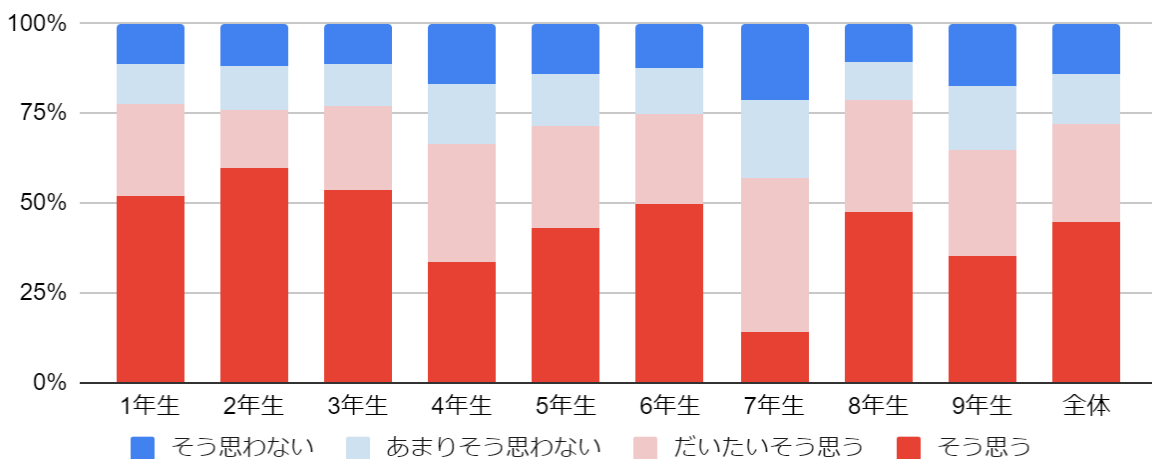
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	14	16	16	17	9	12	6	13	11	114
だいたいそう思う	9	5	8	9	4	5	5	3	3	51
あまりそう思わない	3	1	2	4	3	3	1	1	0	18
そう思わない	3	1	2	4	3	3	1	1	0	18
平均	5.7	5.9	6.1	5.9	5.8	5.7	5.8	6.1	6.6	5.9
昨年度との差		0.2	0.9	-0.4	0.0	-0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0

7) わたしには、いろいろなよいところがある。



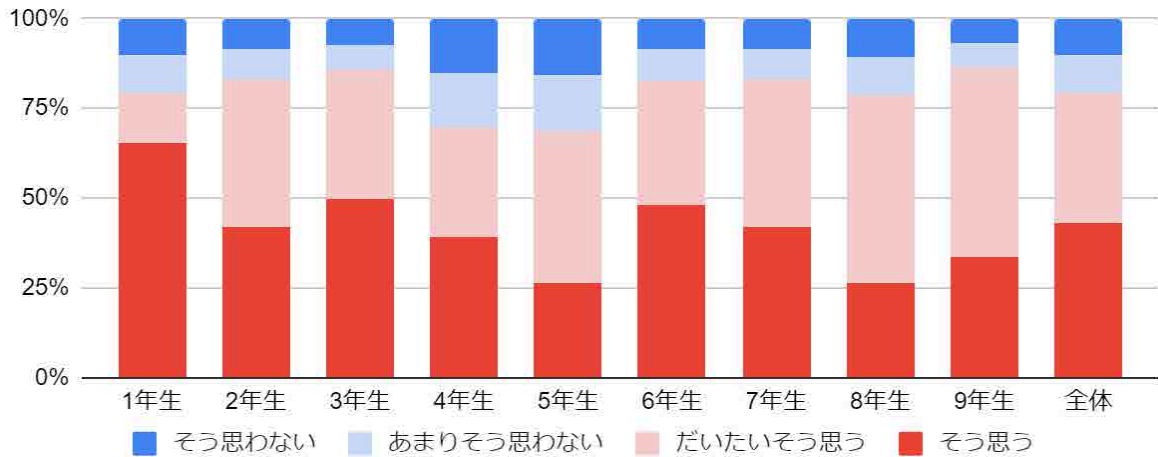
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	13	9	8	5	4	11	3	10	9	72
だいたいそう思う	12	7	13	19	5	9	7	6	5	83
あまりそう思わない	1	6	4	6	4	0	1	2	0	24
そう思わない	1	2	1	0	3	1	1	0	0	9
平均	5.7	4.9	5.2	4.9	4.3	5.9	5.0	5.9	6.3	5.3
昨年度との差		-0.6	0.4	0.4	-0.8	0.5	0.7	1.1	0.3	0.3

8) わたしは、わたしのことが好きだ。



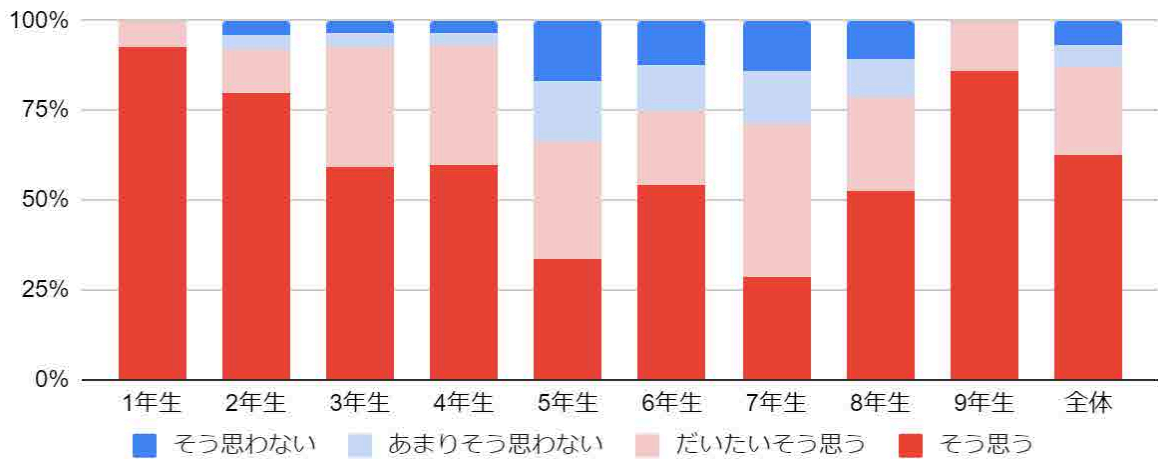
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	14	15	14	12	6	12	2	9	6	90
だいたいそう思う	7	4	6	12	4	6	6	6	5	56
あまりそう思わない	3	3	3	6	2	3	3	2	3	28
そう思わない	3	3	3	6	2	3	3	2	3	28
平均	5.5	5.7	5.4	5.4	4.5	5.9	4.5	5.6	5.4	5.3
昨年度との差		0.1	0.7	0.6	-0.7	0.8	0.7	1.0	-0.3	0.4

9) わたしの心とからだは、元気なことが多い。



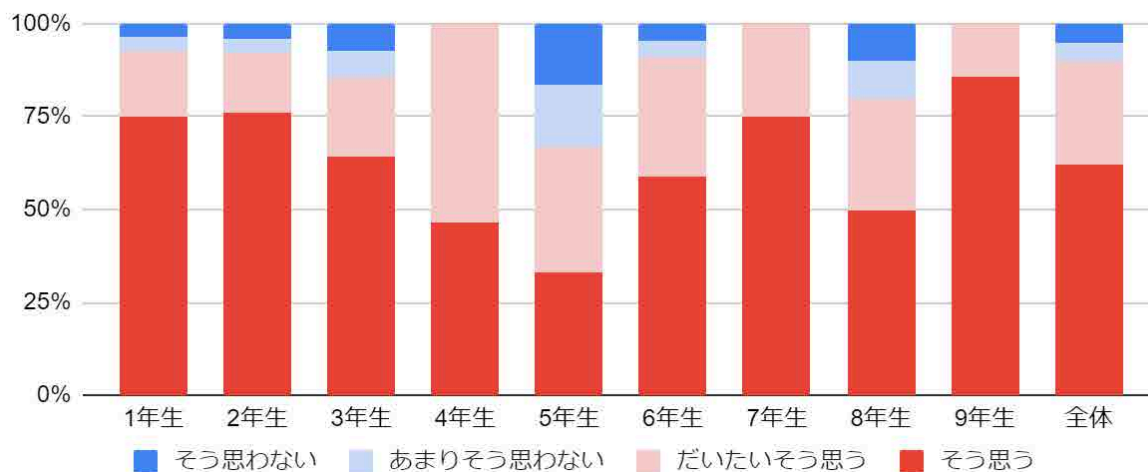
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	19	10	14	13	5	11	5	5	5	87
だいたいそう思う	4	10	10	10	8	8	5	10	8	73
あまりそう思わない	3	2	2	5	3	2	1	2	1	21
そう思わない	3	2	2	5	3	2	1	2	1	21
平均	6.0	5.3	5.9	5.3	5.3	5.9	5.3	5.1	5.6	5.5
昨年度との差		-0.2	0.3	-0.5	-0.3	0.2	1.1	-0.6	0.0	0.1

10) わたしは、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んだ。



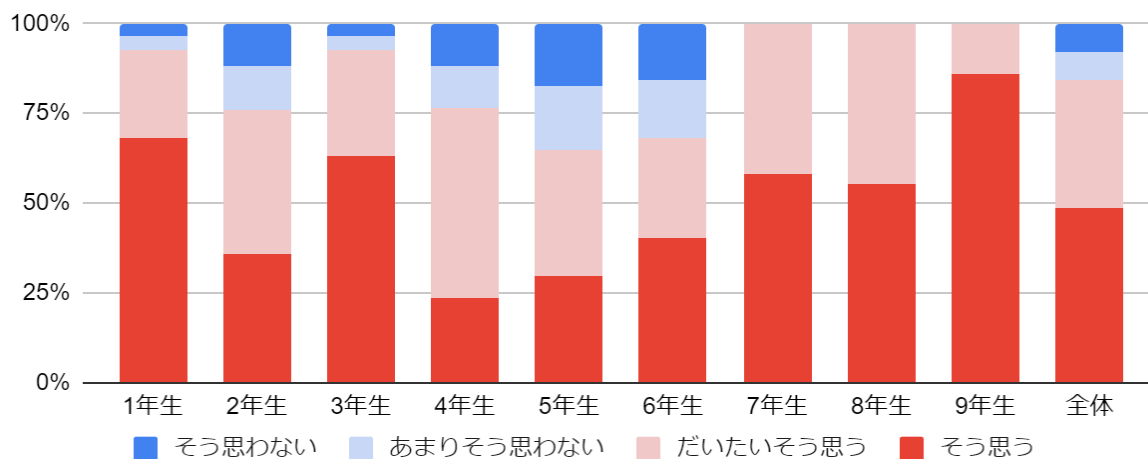
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	25	20	16	18	6	13	4	10	12	124
だいたいそう思う	2	3	9	10	6	5	6	5	2	48
あまりそう思わない	0	1	1	1	3	3	2	2	0	13
そう思わない	0	1	1	1	3	3	2	2	0	13
平均	6.9	6.6	6.2	6.0	5.1	6.0	5.3	5.7	6.7	6.0
昨年度との差		0.2	0.3	0.0	-1.0	-0.1	0.2	-0.3	0.3	0.0

11) わたしは、この一年間で成長した。



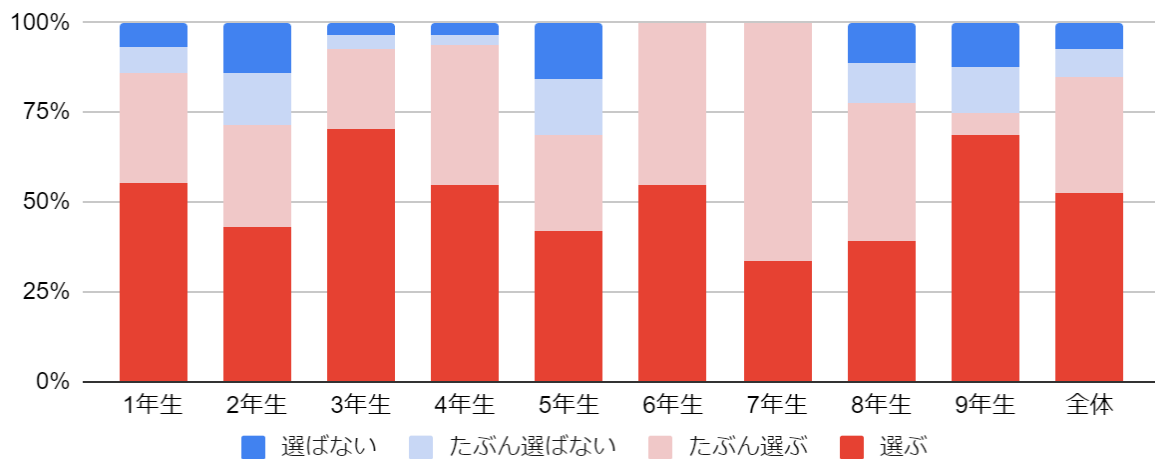
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	21	19	18	14	6	13	9	10	12	122
だいたいそう思う	5	4	6	16	6	7	3	6	2	55
あまりそう思わない	1	1	2	0	3	1	0	2	0	10
そう思わない	1	1	2	0	3	1	0	2	0	10
平均	6.5	6.5	6.2	5.9	5.1	6.1	6.5	5.9	6.7	6.2
昨年度との差		0.1	0.6	-0.2	-0.8	0.1	0.6	0.1	0.0	0.2

12) 一年間をふりかえると、「しあわせな一年間だったなあ」と思う。



	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
そう思う	19	9	17	8	5	10	7	10	12	97
だいたいそう思う	7	10	8	18	6	7	5	8	2	71
あまりそう思わない	1	3	1	4	3	4	0	0	0	16
そう思わない	1	3	1	4	3	4	0	0	0	16
平均	6.3	5.2	6.2	5.3	4.8	5.6	6.2	6.1	6.7	5.8
昨年度との差		-0.9	0.5	-0.1	-0.7	-0.4	1.5	-0.2	0.0	0.1

13) もう一度入学するならば、軽井沢風越学園を選ぶ。



	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	全体
選ぶ	16	12	19	17	8	11	4	7	11	105
たぶん選ぶ	9	8	6	12	5	9	8	7	1	65
たぶん選ばない	2	4	1	1	3	0	0	2	2	15
選ばない	2	4	1	1	3	0	0	2	2	15
平均	6.0	5.7	6.4	6.1	5.6	5.9	5.7	5.1	6.3	5.9
昨年度との差		-0.2	0.3	0.0	-0.6	0.5	1.6	-1.0	0.7	0.2

### 3.保護者を対象にした学校評価

実施日:2023年12月4日～12月23日  
対象:幼稚園及び義務教育学校の保護者述べ555人  
実施方法:Google Forms  
回答人数 述べ155人  
回答率 27.9%(2022年度回答率22.2%)

#### 学年毎の回答人数と回答率

	対象人数	回答人数	回答率
年少	34	15	44.1%
年中	45	16	35.6%
年長	40	17	42.5%
1年生	56	15	26.8%
2年生	54	16	29.6%
3年生	60	11	18.3%
4年生	58	14	24.1%
5年生	45	10	22.2%
6年生	44	9	20.5%
7年生	37	11	29.7%
8年生	49	12	24.5%
9年生	33	9	27.3%
計	555	155	27.9%

## 質問項目と回答

(質問項目:重要度と実現度)

1. 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。
2. 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。
3. 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。
4. 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。
5. スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。
6. 子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。
7. スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。
8. スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。
9. 子どもが、安心して学園で過ごしていること。
10. 子どもが、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んでいること。
11. 子どもが、この一年間で成長していること。
12. 軽井沢風越学園のこの一年間の学校運営は、5点満点で何点だと思いますか？
13. 子どもがもう一度入園入学するならば、軽井沢風越学園を選ぶ。

(回答)

質問1～11:

重要度と実現度の4段階評価(最低1～最高7)。実現度には「わからない」の選択肢も加えた。

質問12:5段階評価(最低1～最高5)

質問13:4段階評価(最低1～最高7)

## 集計

(質問項目1～11)

3. 項目毎に「重要度平均」と「実現度平均」を算出した。
4. 重要度平均は、「重要だ(7点)」「やや重要だ(5点)」「あまり重要ではない(3点)」「重要ではない(1点)」として算出した。
5. 実現度平均は、「実現できている(7点)」「やや実現できている(5点)」「あまり実現できていない(3点)」「実現できていない(1点)」として算出する。「わからない」は別途集計し、平均からは除いた。
6. 課題を明確にするために、「ニーズ度」を算出した。ニーズ度は、「ニーズ度＝重要度平均×(8－実現度平均)」の計算式で算出した。したがって、「重要度が高く」かつ「実現度が低い」項目はニーズ度が高くなる。ニーズ度の最大値は49、最小値は7となる。

(質問項目12)

回答の平均を算出した。

(質問項目13)

「選ぶ(7点)」「たぶん選ぶ(5点)」「たぶん選ばない(3点)」「選ばない(1点)」として平均を算出した。

## 集計結果(保護者)

実現度が改善されているものは★

		重要度	実現度	ニーズ度	ニーズ度順位
(1)軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。	今年度	6.6	★5.3	18.0	2
	昨年度	6.7	4.7	22.1	
(2)軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するよう環境整備がなされていること。	今年度	6.5	★5.8	14.2	8
	昨年度	6.1	5.1	17.9	
(3)災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。	今年度	6.8	★5.8	14.9	7
	昨年度	6.8	5.6	16.4	
(4)軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。	今年度	6.5	★4.7	21.7	1
	昨年度	6.5	3.6	28.6	
(5)スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。	今年度	6.5	★5.3	17.5	4
	昨年度	6.5	4.1	25.3	
(6)子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。	今年度	6.1	5.1	17.8	3
	昨年度	5.9	5.2	16.8	
(7)スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。	今年度	6.8	★5.7	15.6	5
	昨年度	6.8	4.7	22.6	
(8)スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。	今年度	6.5	★6.1	12.6	10
	昨年度	6.5	5.3	17.6	
(9)子どもが、安心して学園で過ごしていること。	今年度	6.9	★5.8	15.4	6
	昨年度	6.9	5.4	18.4	
(10)子どもが、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んでいること。	今年度	6.9	★6.0	13.5	9
	昨年度	6.9	5.1	20.1	
(11)子どもが、この一年間で成長していること。	今年度	6.5	★6.4	10.6	11
	昨年度	6.3	5.8	14.2	

(12)軽井沢風越学園のこの一年間の学校運営は、5点満点で何点だと思いますか？(1~5点)	今年度	★4.1	
	昨年度	3.4	
(13)子どもがもう一度入園入学するならば、軽井沢風越学園を選ぶ。(1~7点)	今年度	★6.2	
	昨年度	5.4	

## 4.スタッフを対象にした学校評価

実施日:2023年12月14日～26日

対象:軽井沢風越学園スタッフ(教育委員会からの派遣、業務委託等を含む)53人

実施方法:Google Forms

回答人数と回答率:回答人数 29人 回答率 54.7%(2022年度回答率 45.5%)

### 質問項目と回答

(質問項目:重要度と実現度)

1. 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。
2. 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。
3. 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。
4. 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。
5. スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。
6. スタッフが子どもに過不足なく関わっていること。
7. スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。
8. スタッフが、子どもたちの育ちを支えるために学び続け、成長していること。
9. 子どもが、安心して学園で過ごしていること。
10. 子どもが、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んでいること。
11. 子どもが、この一年間で成長していること。
12. 軽井沢風越学園のこの一年間の学校運営は、5点満点で何点だと思いますか？

(回答)

質問1～11:

重要度と実現度の4段階評価(最低1～最高7)。

質問12:5段階評価(最低1～最高5)

### 集計

(質問項目1～11)

1. 項目毎に「重要度平均」と「実現度平均」を算出した。
2. 重要度平均は、「重要だ(7点)」「やや重要だ(5点)」「あまり重要ではない(3点)」「重要ではない(1点)」として算出した。
3. 実現度平均は、「実現できている(7点)」「やや実現できている(5点)」「あまり実現できていない(3点)」「実現できていない(1点)」として算出する。
4. 課題を明確にするために、「ニーズ度」を算出した。ニーズ度は、「ニーズ度=重要度平均×(8-実現度平均)」の計算式で算出した。したがって、「重要度が高く」かつ「実現度が低い」項目はニーズ度が高くなる。ニーズ度の最大値は49、最小値は7となる。

(質問項目12)

回答の平均を算出した。

## 集計結果(スタッフ)

実現度が改善されているものは★

		重要度	実現度	ニーズ度	ニーズ度順位
(1) 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。	今年度	6.8	★4.7	22.7	6
	昨年度	6.8	4.4	24.9	
(2) 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。	今年度	6.9	★4.6	23.7	3
	昨年度	6.9	3.9	28.5	
(3) 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。	今年度	6.9	4.7	23.0	5
	昨年度	7.0	4.8	22.1	
(4) 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。	今年度	6.7	★4.0	26.4	1
	昨年度	6.8	3.1	33.3	
(5) スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。	今年度	6.8	★4.6	23.2	4
	昨年度	6.6	3.5	29.8	
(6) 子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。	今年度	6.9	★4.5	23.9	2
	昨年度	6.8	3.9	27.9	
(7) スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。	今年度	6.9	★4.9	21.5	8
	昨年度	6.8	4.0	27.1	
(8) スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。	今年度	6.8	★4.7	22.3	7
	昨年度	6.8	3.9	27.9	
(9) 子どもが、安心して学園で過ごしていること。	今年度	6.7	★5.1	19.2	9
	昨年度	6.8	4.1	26.5	
(10) 子どもが、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んでいること。	今年度	6.7	★5.3	18.1	10
	昨年度	6.9	4.6	23.5	
(11) 子どもが、この一年間で成長していること。	今年度	6.4	★6.0	12.5	11
	昨年度	6.2	5.4	16.1	
(12) 軽井沢風越学園のこの一年間の学校運営は、5点満点で何点だと思いますか？	今年度	★3.8	*1~5		
	昨年度	3.0			

## 5.保護者とスタッフの回答結果の比較

保護者とスタッフの質問項目のうち同じ内容についての回答結果比較は以下の通り。

### ニーズ度

	保護者	スタッフ
(1) 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。	18.0	22.7
(2) 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。	14.2	23.7
(3) 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。	14.9	23.0
(4) 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。	21.7	26.4
(5) スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。	17.5	23.2
(6) 子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。	17.8	23.9
(7) スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。	15.6	21.5
(8) スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。	12.6	22.3
(9) 子どもが、安心して学園で過ごしていること。	15.4	19.2
(10) 子どもが、この一年間でたっぶり遊び、たっぶり学んでいること。	13.5	18.1
(11) 子どもが、この一年間で成長していること。	10.6	12.5

### 重要度

	保護者	スタッフ
(1) 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。	5.3	6.8
(2) 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。	5.8	6.9
(3) 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。	5.8	6.9
(4) 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。	4.7	6.7
(5) スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。	5.3	6.8
(6) 子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。	5.1	6.9
(7) スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。	5.7	6.9
(8) スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。	6.1	6.8
(9) 子どもが、安心して学園で過ごしていること。	5.8	6.7
(10) 子どもが、この一年間でたっぶり遊び、たっぶり学んでいること。	6	6.7
(11) 子どもが、この一年間で成長していること。	6.4	6.4

## 実現度

	保護者	スタッフ
(1) 軽井沢風越学園が、子どもの安全確保に取り組んでいること。	5.3	4.7
(2) 軽井沢風越学園が、子どもの生活が充実するように環境整備がなされていること。	5.8	4.6
(3) 災害時の対応について、子どもや保護者に伝わっていること。	5.8	4.7
(4) 軽井沢風越学園の新たな取り組みを実施する時やこれまでの取り組みを変更する時に、ねらいや内容が子どもや保護者に伝わっていること。	4.7	4.0
(5) スタッフと保護者とのコミュニケーションが、十分に取れていること。	5.3	4.6
(6) 子どもの育ちのことや学園でのことについて、相談できる保護者同士の関係があること。	5.1	4.5
(7) スタッフ同士が連携して、子どもの育ちを支えていること。	5.7	4.9
(8) スタッフが、子どもの育ちを支えるために学び続け、成長していること。	6.1	4.7
(9) 子どもが、安心して学園で過ごしていること。	5.8	5.1
(10) 子どもが、この一年間でたっぷり遊び、たっぷり学んでいること。	6	5.3
(11) 子どもが、この一年間で成長していること。	6.4	6.0

## その他

	保護者	スタッフ
(12) 軽井沢風越学園のこの一年間の学校運営は、5点満点で何点だと思いますか？	4.1	3.8

以上